

---

---

## 淀川水系 猪名川下流ブロック

(木代川, 切畑川, 石田川, 石澄川, 茶長阪川, 千里川, 箕面鍋田川, 芋川, 初谷川, 神田川)

### 当面の治水目標の設定について

---

---

1. 猪名川下流ブロックの現状
2. 治水計画の概要
3. 治水事業の概要
4. 当面の治水目標の設定

# 1. 猪名川下流ブロックの現状

猪名川は、流域面積が383km<sup>2</sup>、幹線流路延長が43.2kmの河川で、大阪市と尼崎市境で神崎川に合流する。猪名川下流ブロックには本支川合わせて13河川あり、管理延長は約54kmである。

河川	延長(km)
淀川水系	
① 猪名川	1.20
② 余野川	15.45
③ 木代川	1.91
④ 切畑川	1.99
⑤ 石田川	1.59
⑥ 箕面川	12.40
⑦ 石澄川	2.26
⑧ 茶長阪川	1.15
⑨ 千里川	10.70
⑩ 箕面鍋田川	1.59
⑪ 芋川	1.08
⑫ 初谷川	2.78
⑬ 神田川	0.07
管理延長合計	54.17

※延長は、大阪府管理区間を示す。

②、⑥、⑨、⑬は猪名川本川に合流

⑥、⑫は、管理区間下流端で兵庫県管理区間に流入

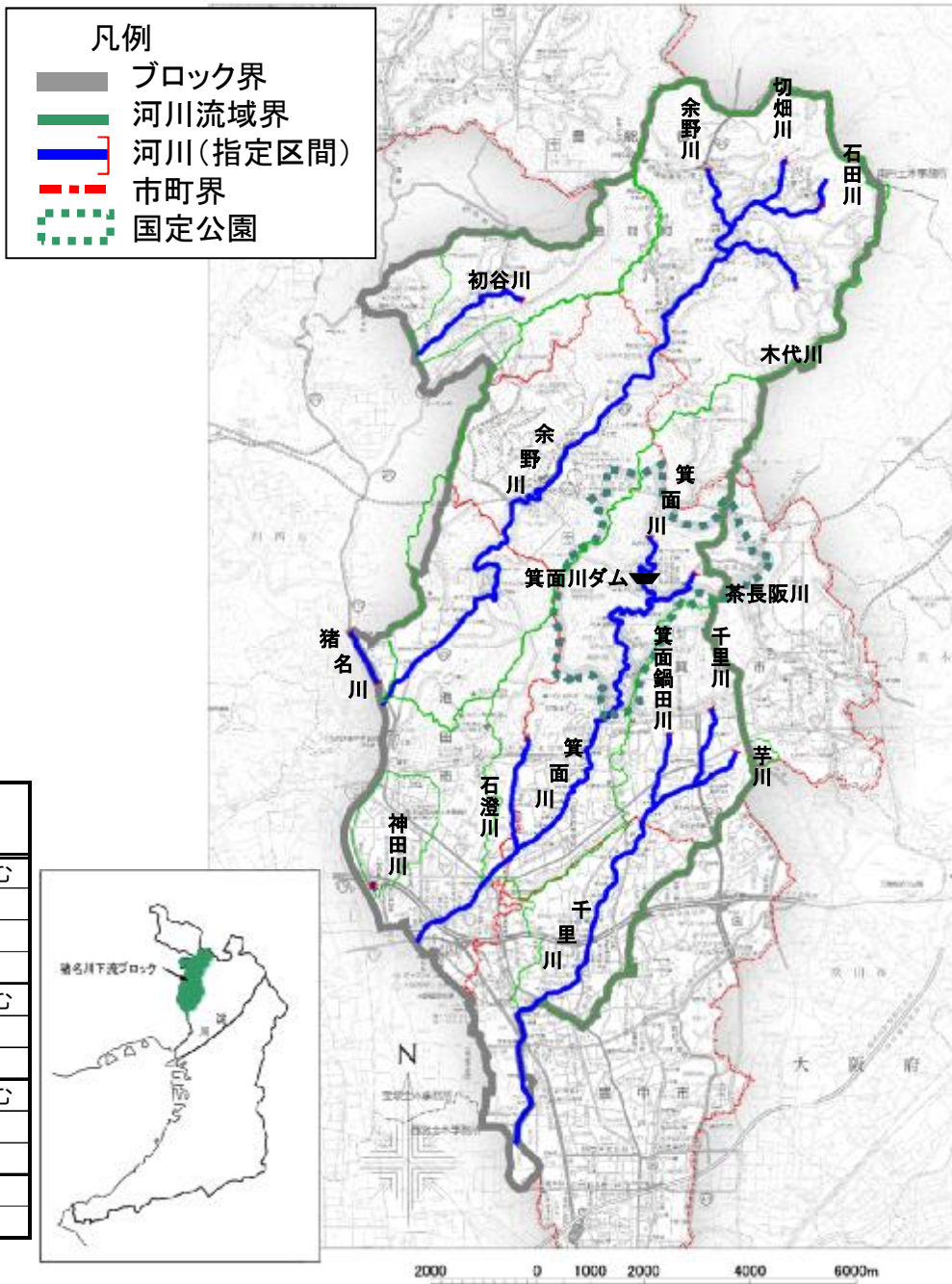


# 1. 猪名川下流ブロックの現状

猪名川下流ブロックは、北摂山地に源を発し、猪名川に合流する余野川、箕面川、千里川、神田川と一庫・大路次川に注ぐ初谷川の各流域から構成される。

豊中市から池田市、箕面市にかけての北摂山地へ続く、北大阪丘陵では、山麓までが宅地開発されており、市街地化が著しい地域になっている。

ブロック内には、重要度の高い大阪国際空港も設置されている。



流域面積・土地利用状況

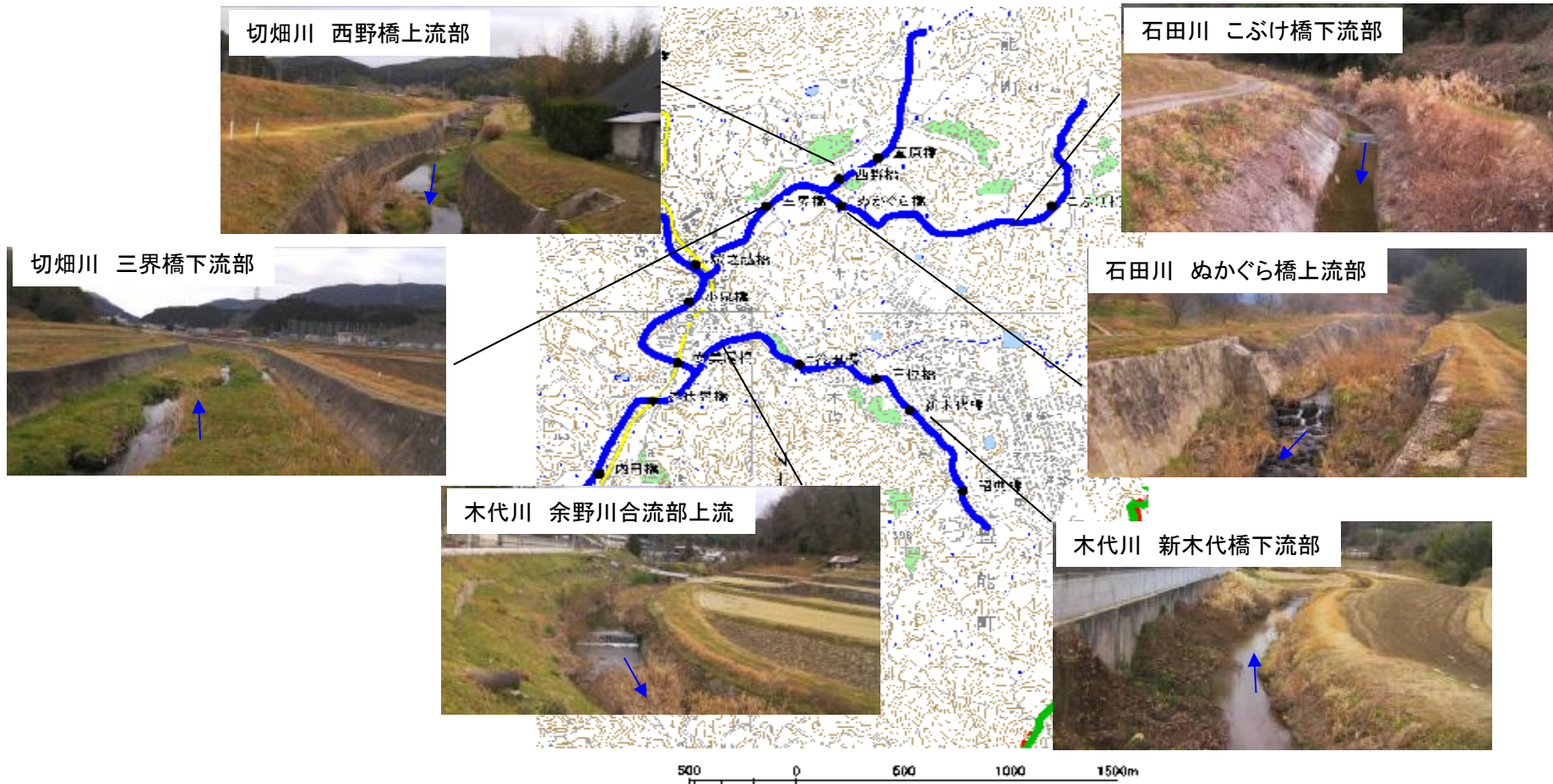
	流域面積 (km <sup>2</sup> )	主な土地利用割合(%)					備考
		市街地	畑・原野	水田	山地	池	
余野川	45.0	19	7	11	62	1	支川流域含む
木代川	5.5	18	2	20	60	0	
切畑川	4.5	4	2	28	66	0	
石田川	1.6	2	3	25	70	0	
箕面川	23.6	34	7	2	56	1	支川流域含む
石澄川	2.8	27	35	0	36	2	
茶長阪川	1.7	1	0	0	99	0	
千里川	14.0	82	0	2	15	1	支川流域含む
芋川	1.8	85	0	9	6	0	
箕面鍋田川	2.0	51	0	2	46	1	
初谷川	8.6	13	0	7	80	0	
神田川	2.5	93	2	1	2	2	

# 1. 猪名川下流ブロックの現状（木代川、切畑川、石田川）

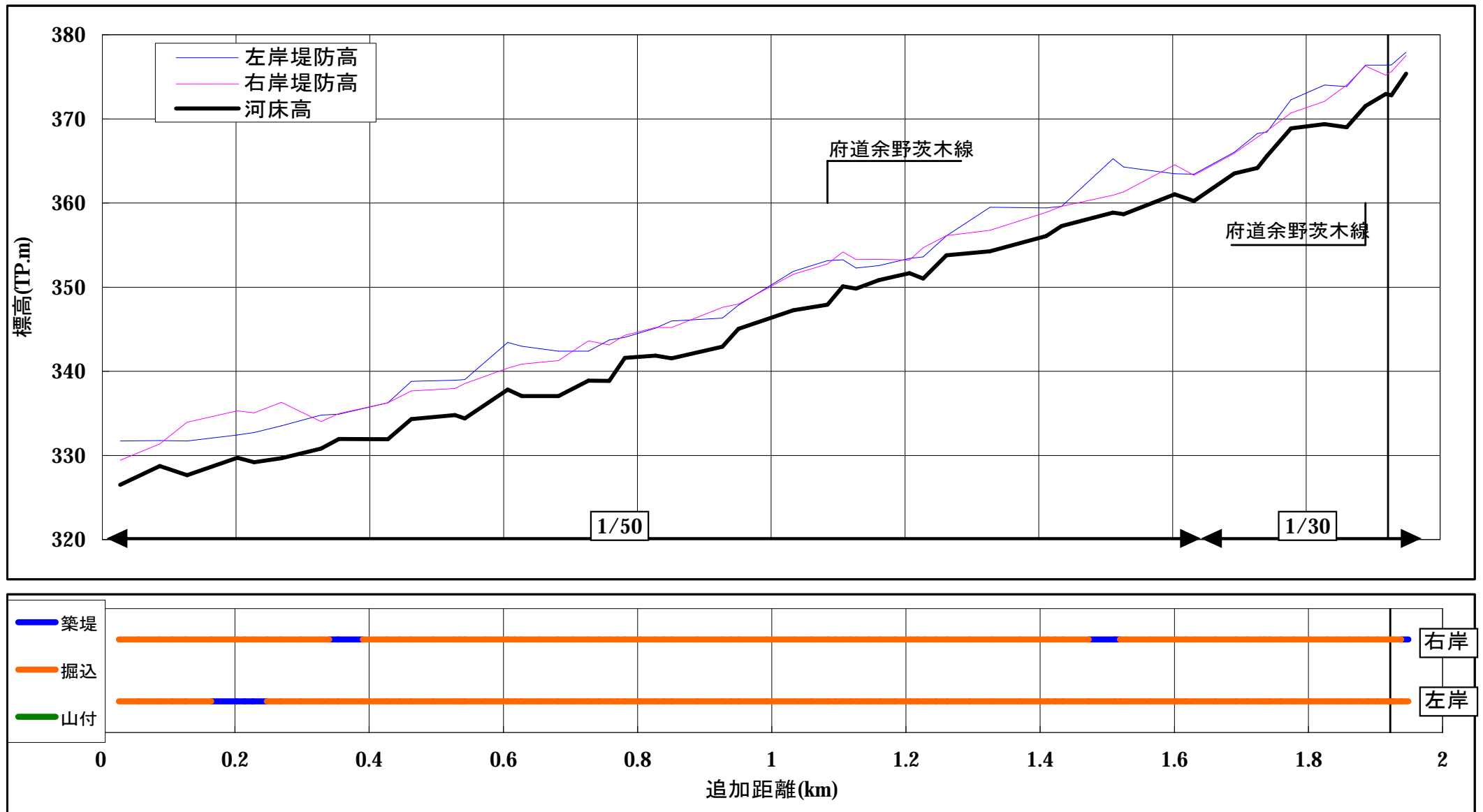
木代川は余野川の左支川で、豊能町内を流れる指定区間延長1.912kmの一級河川である。周辺には田園風景が広がり、未改修河川で、川幅10m程度、河床勾配は約1/50～1/30と急勾配である。

切畑川は余野川の左支川で、豊能町内を流れる指定区間延長1.990kmの一級河川である。圃場整備とともに河川改修が進められたが、一部では未改修の状況である。川幅10m程度、河床勾配は約1/150～1/30と急勾配で、周辺には田園風景が広がっている。

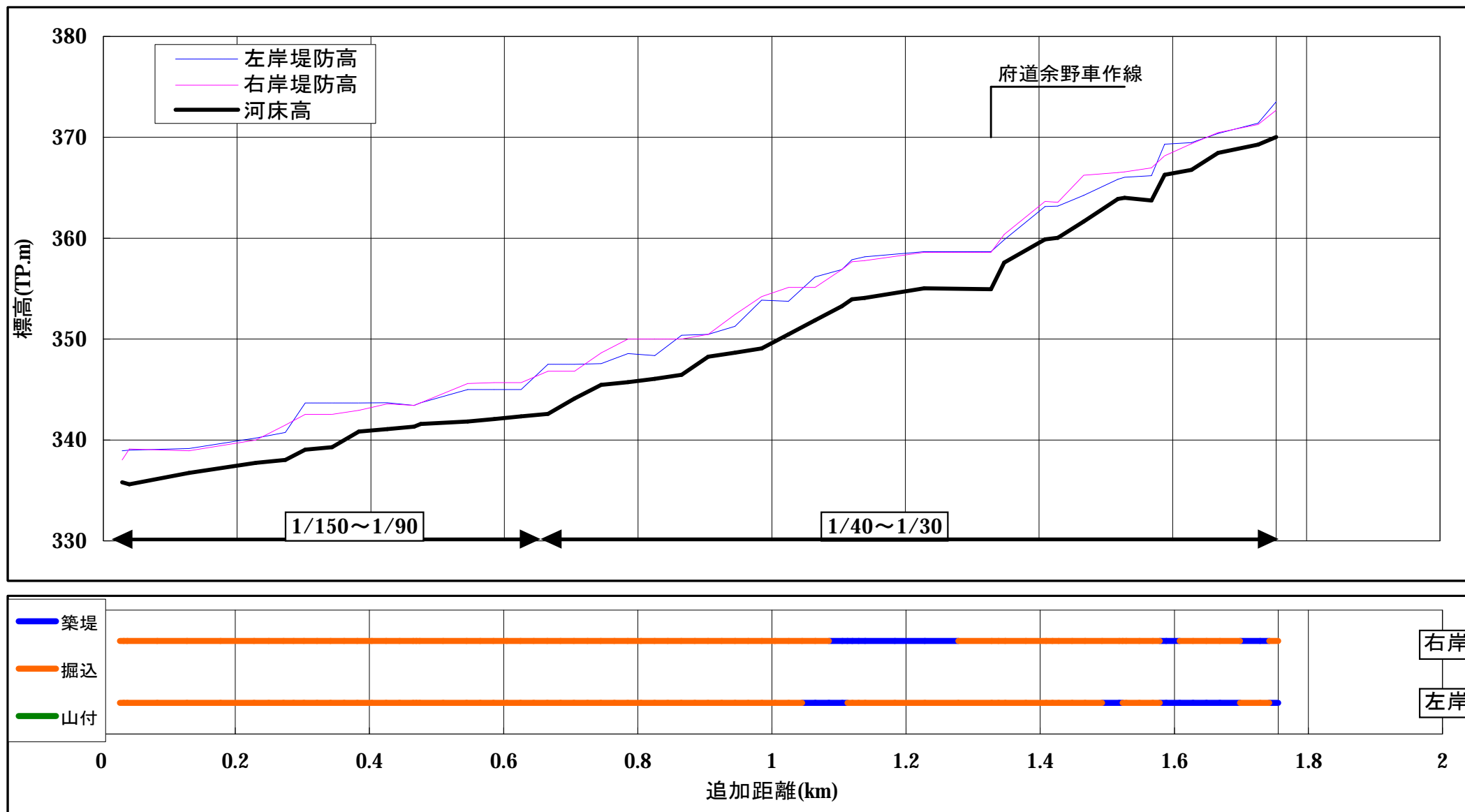
石田川は切畑川の左支川で、豊能町内を流れる指定区間延長1.586kmの一級河川である。切畑川同様、圃場整備とともに河川改修が進められたが、一部では未改修の状況で、川幅7m程度、河床勾配は約1/30と急勾配で、周辺には田園風景が広がっている。



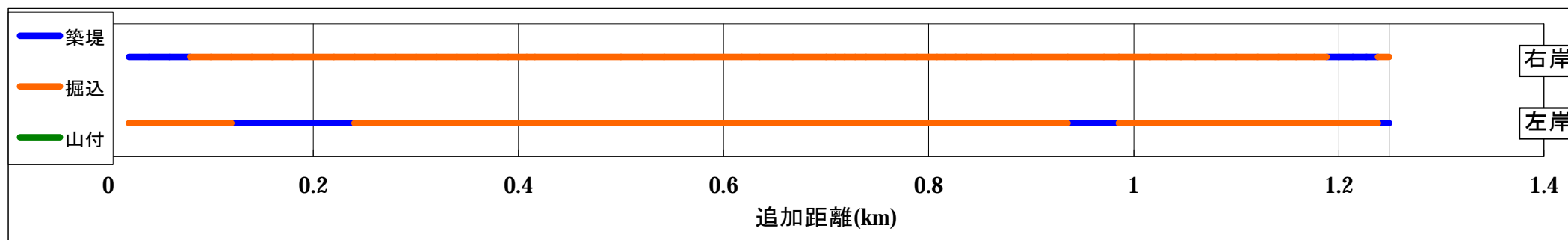
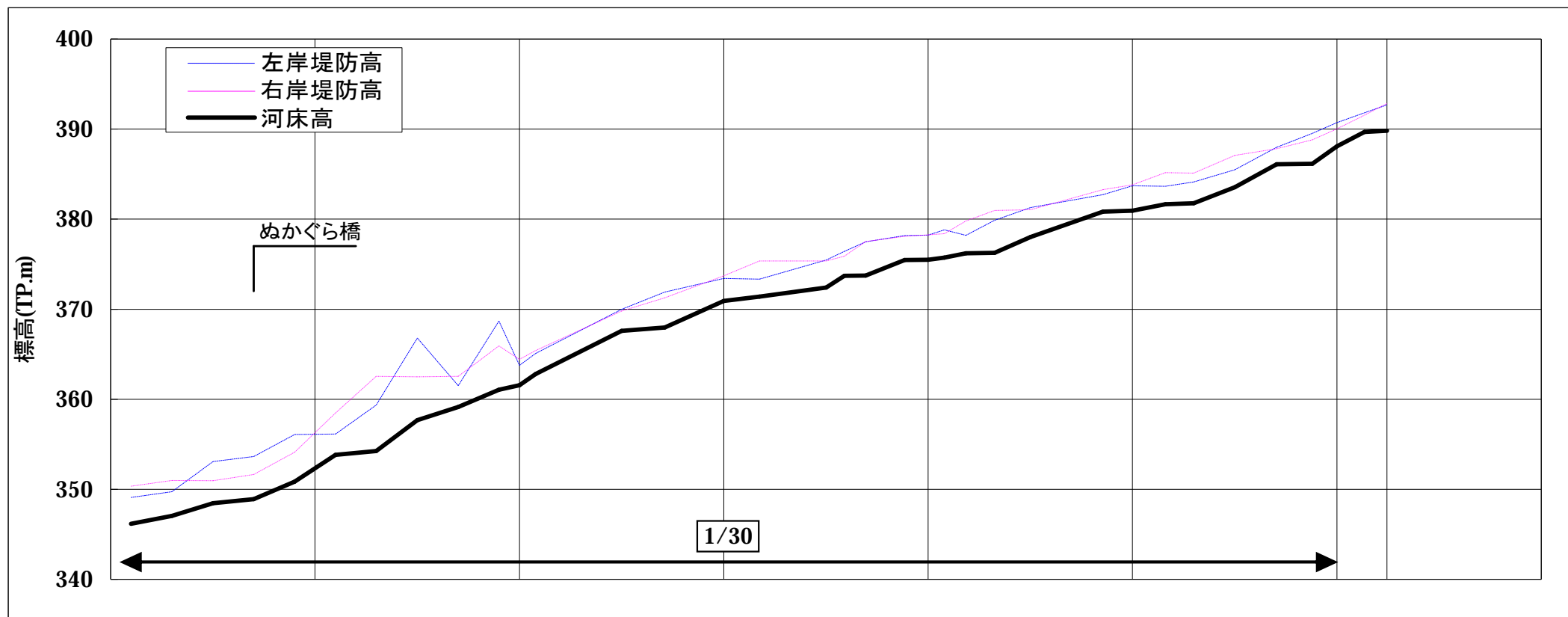
# 1. 猪名川下流ブロックの現状（木代川 縦断形状）



# 1. 猪名川下流ブロックの現状（切畑川 縦断形状）



# 1. 猪名川下流ブロックの現状（石田川 縦断形状）



# 1. 猪名川下流ブロックの現状（石澄川、茶長阪川）

石澄川は、箕面川の右支川で、池田市六箇山北方に源を発し、皿池・中池・尻池等を経て、池田市、箕面市を流れる指定区間延長2.258kmの一級河川である。川幅約10～5m、河床勾配は、約1/40～1/20と急勾配で、全面的に河床張コンクリートが設置されており、周辺は密集した市街地である。

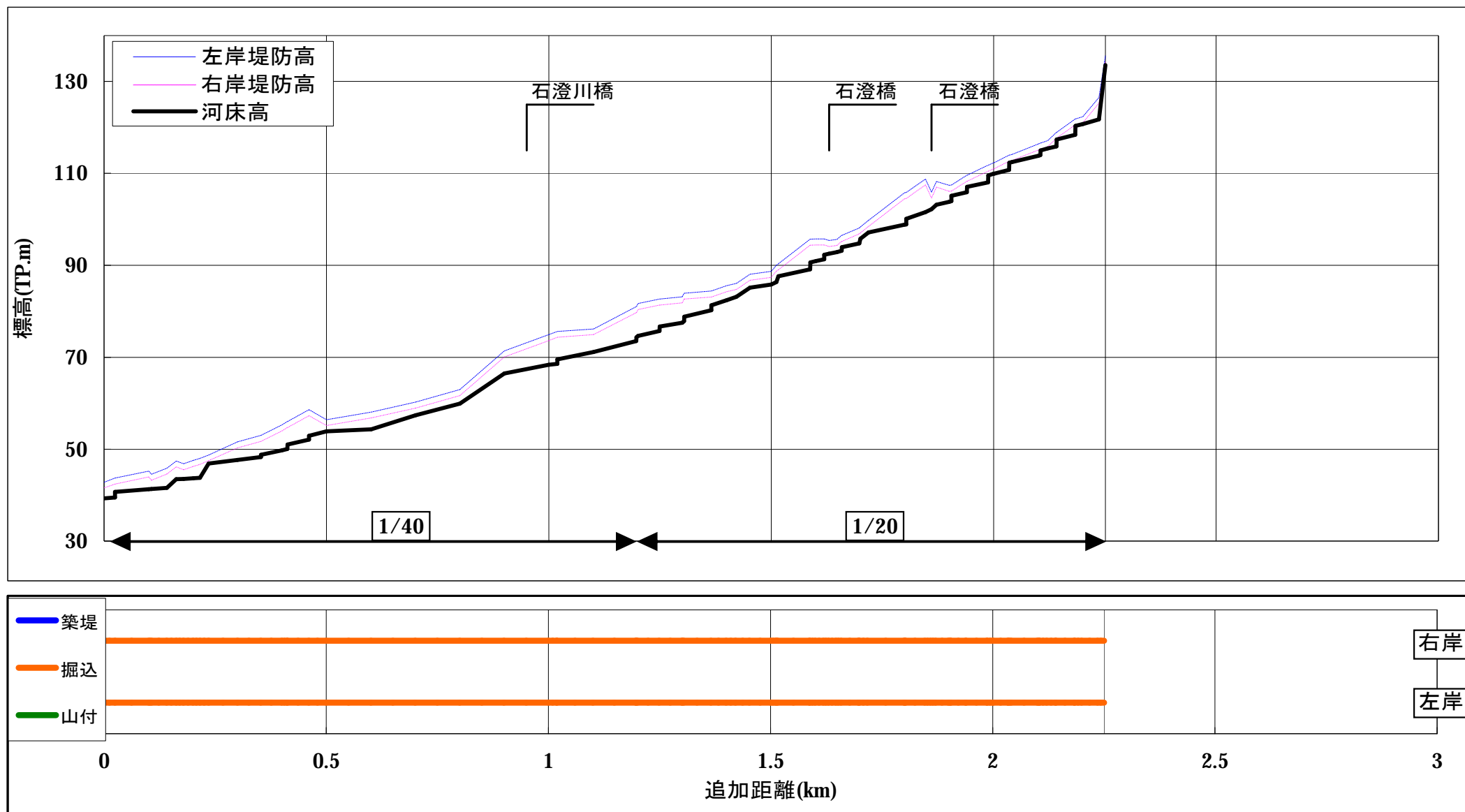
茶長阪川は、箕面川の左支川で、箕面川ダム下流の箕面川に合流する指定区間延長1.150kmの一級河川である。

川幅10m程度、河床勾配は約1/30～1/10と急勾配で、府道豊中亀岡線沿いの山間部を流れている。

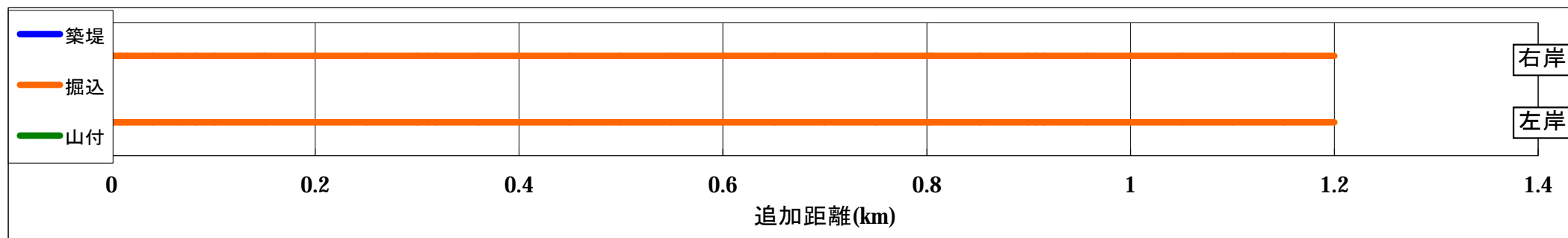
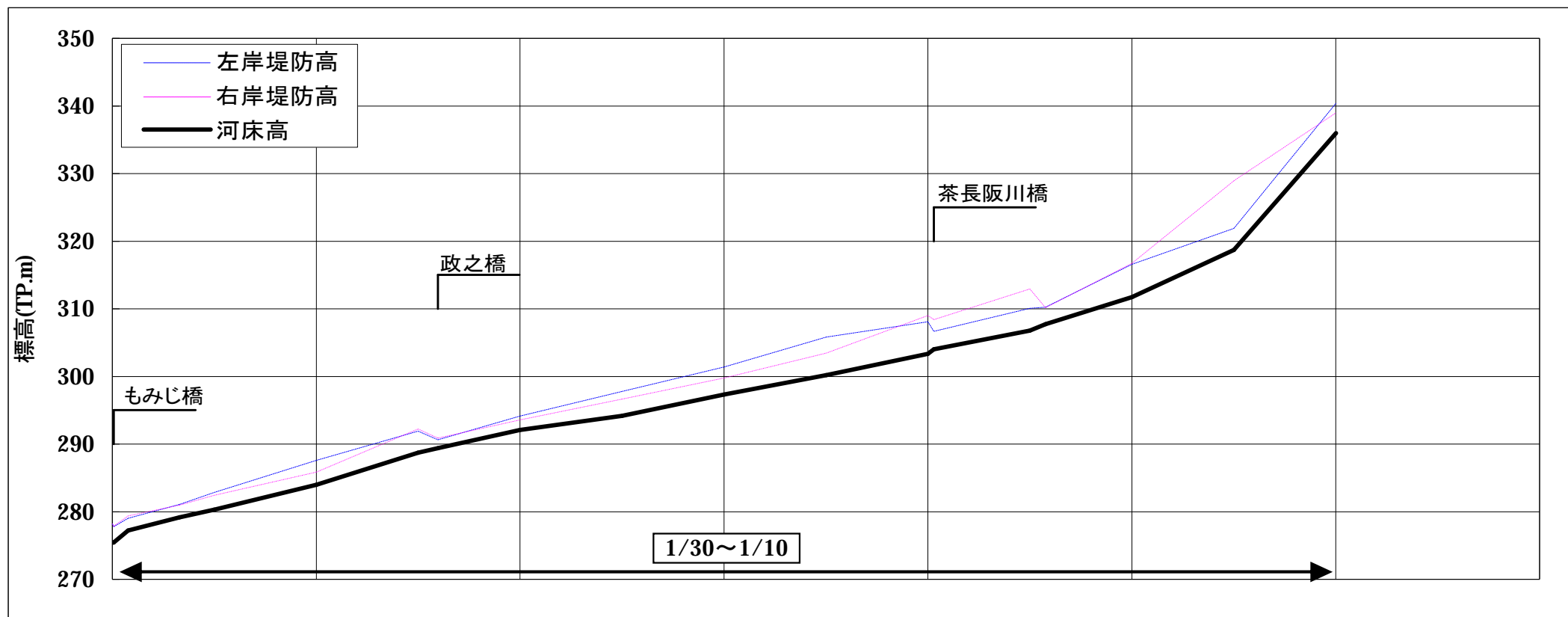




# 1. 猪名川下流ブロックの現状（石澄川 縦断形状）



# 1. 猪名川下流ブロックの現状（茶長阪川 縦断形状）



# 1. 猪名川下流ブロックの現状（千里川）

千里川は箕面市の箕面山に源を発し、芋川、箕面鍋田川と合流した後、豊中市の市街地を西南に流下し、大阪国際空港の南側を右岸に接しながら猪名川に注ぐ指定区間延長10.696kmの一級河川である。

中下流部では河床勾配が約1/340~1/130、川幅約25mで、コンクリートブロック護岸が整備され、画一的な断面区間となっている。

上流部では河床勾配は約1/80~1/30となり、川幅は8m程度で落差工が増え、人工的な河川景観となっている。

千里川 新千里川橋上流部



千里川 萱野中央中橋下流部



千里川 上水田橋上流部



千里川 箕輪小橋下流部



千里川 明治橋上流部



千里川 原田橋上流部



千里川 千里川橋下流部



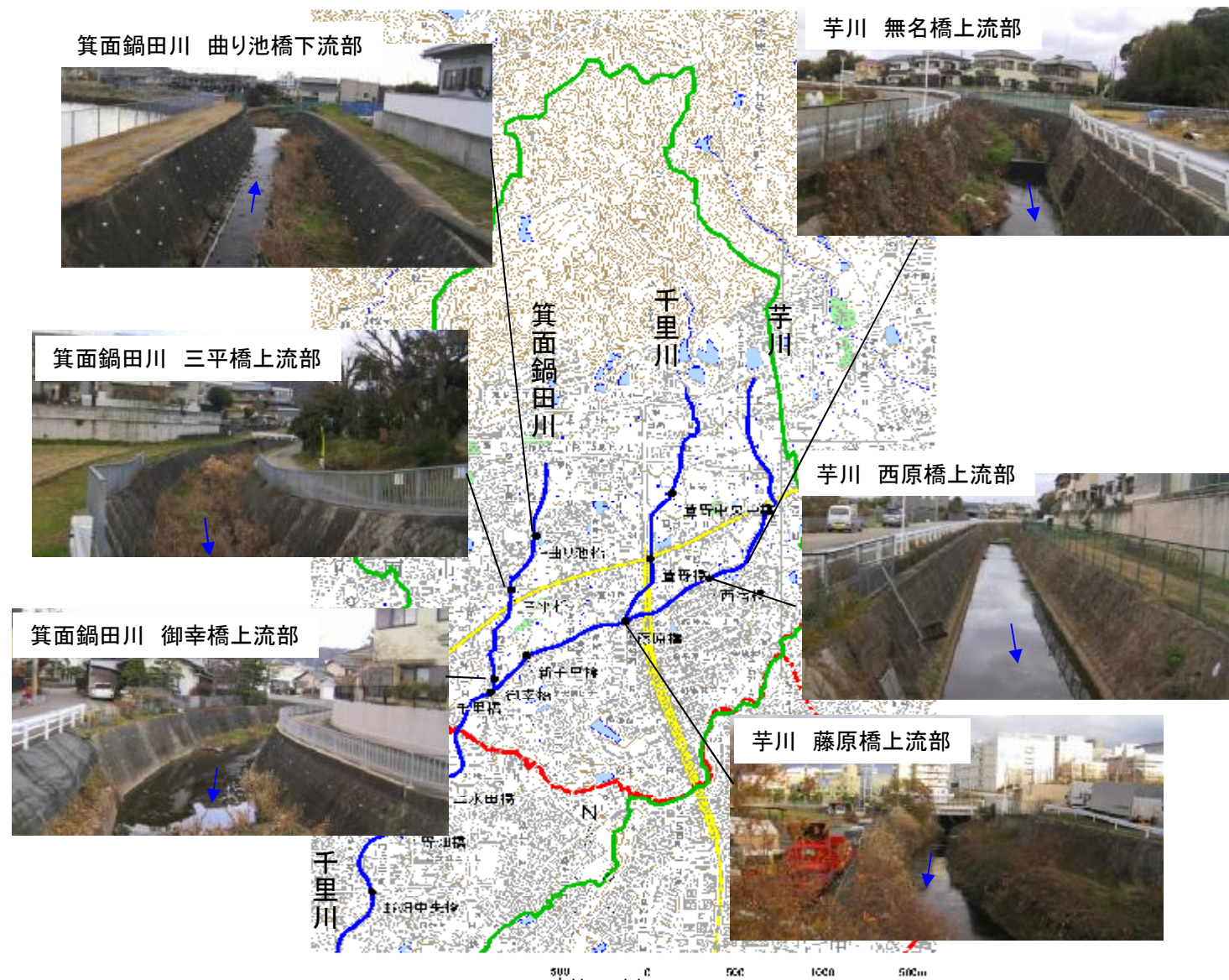
# 1. 猪名川下流ブロックの現状（箕面鍋田川、芋川）

箕面鍋田川は、千里川の右支川で、箕面市如意谷地区に源を発し、箕面市を流れる指定区間延長1.589kmの一級河川である。

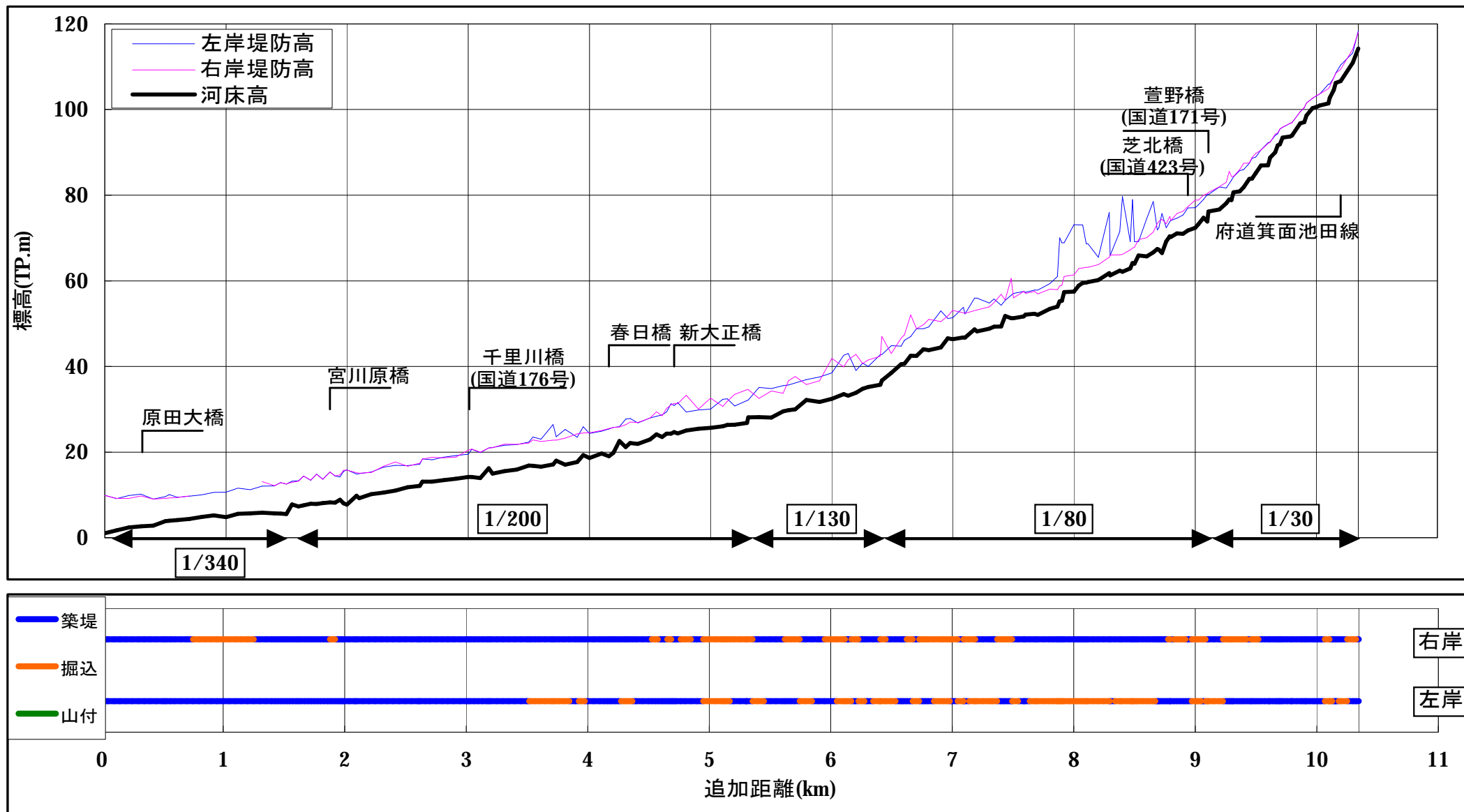
川幅7m程度、河床勾配は約1/100～1/30で、下流部は市街地を流れるが、上流部には田園が周辺に残っている。

芋川は、千里川の左支川で、箕面市石丸の打越池から流れ出し、箕面市を流れる指定区間延長1.083kmの一級河川である。

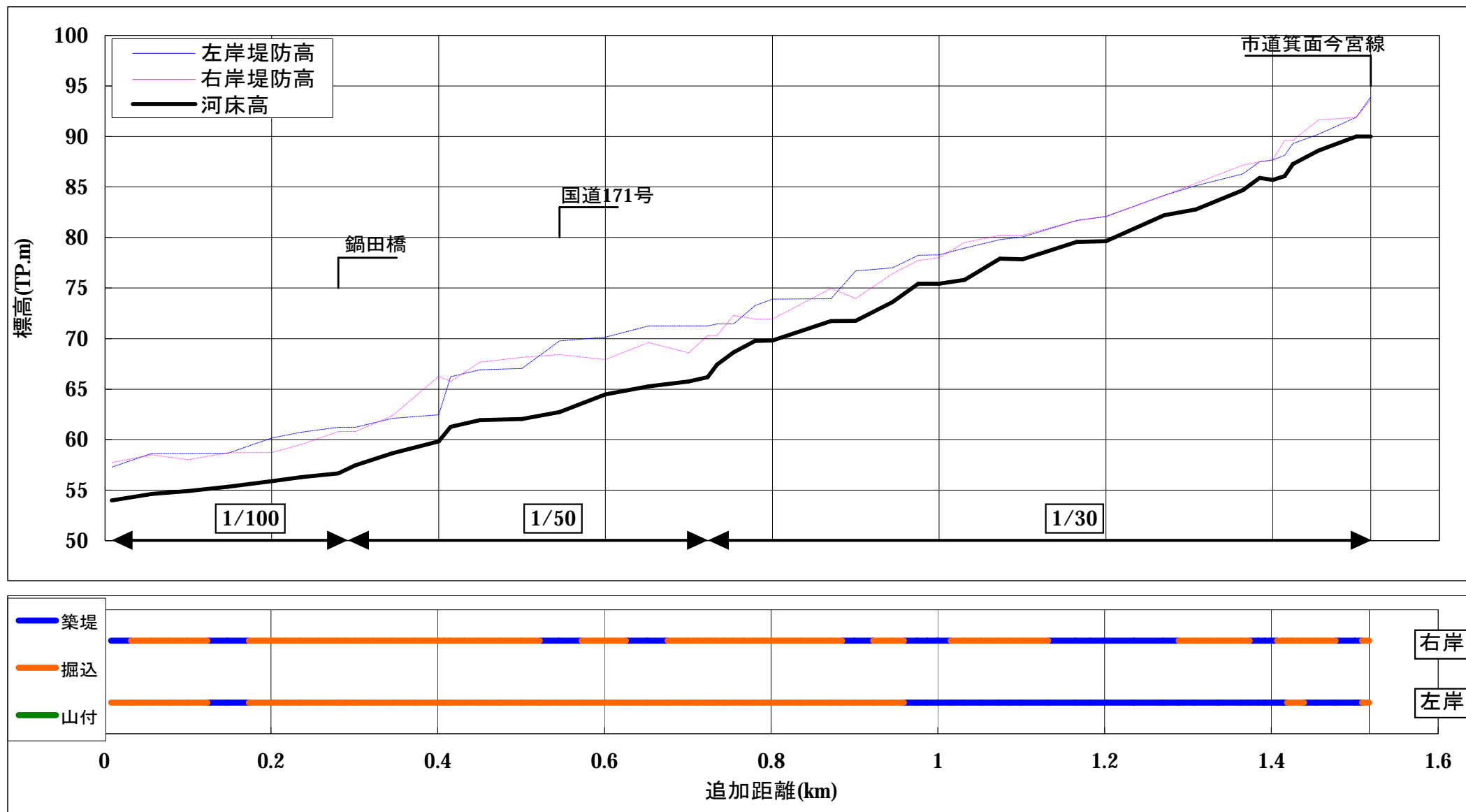
川幅7m程度、河床勾配は約1/100～1/60で河床張コンクリートが設置されている。丘陵地を流れ、川沿いには新興住宅地の中に残った農地が目立つ。



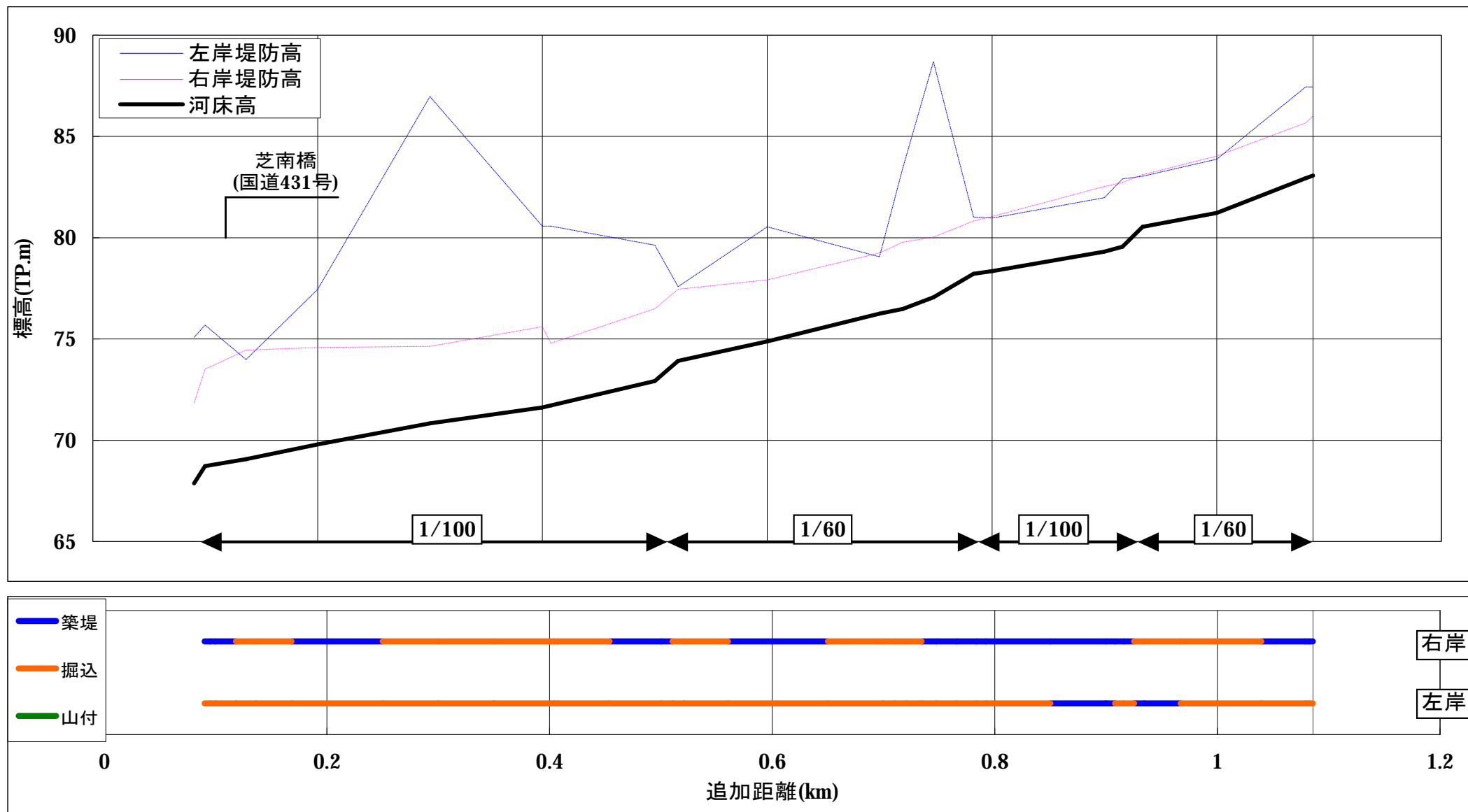
# 1. 猪名川下流ブロックの現状（千里川 縦断形状）



# 1. 猪名川下流ブロックの現状（箕面鍋田川 縦断形状）



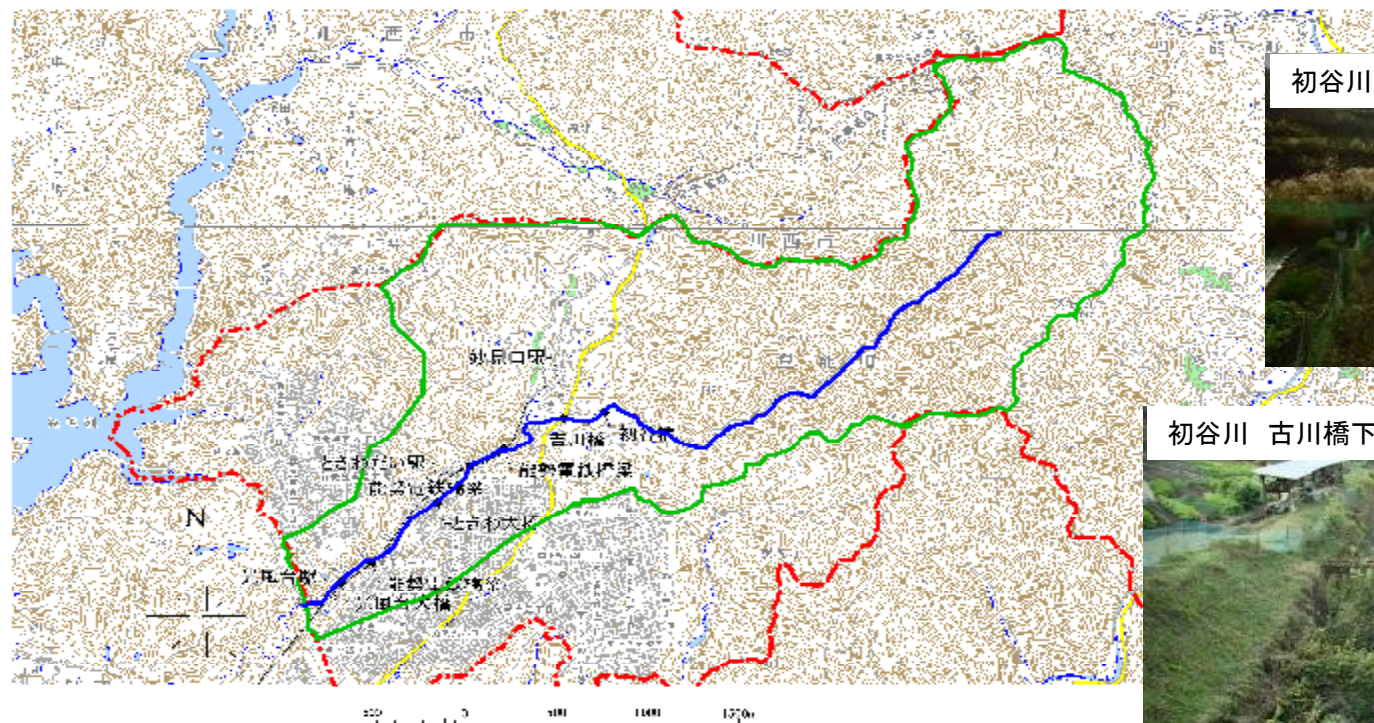
# 1. 猪名川下流ブロックの現状（芋川 縦断形状）



# 1. 猪名川下流ブロックの現状（初谷川）

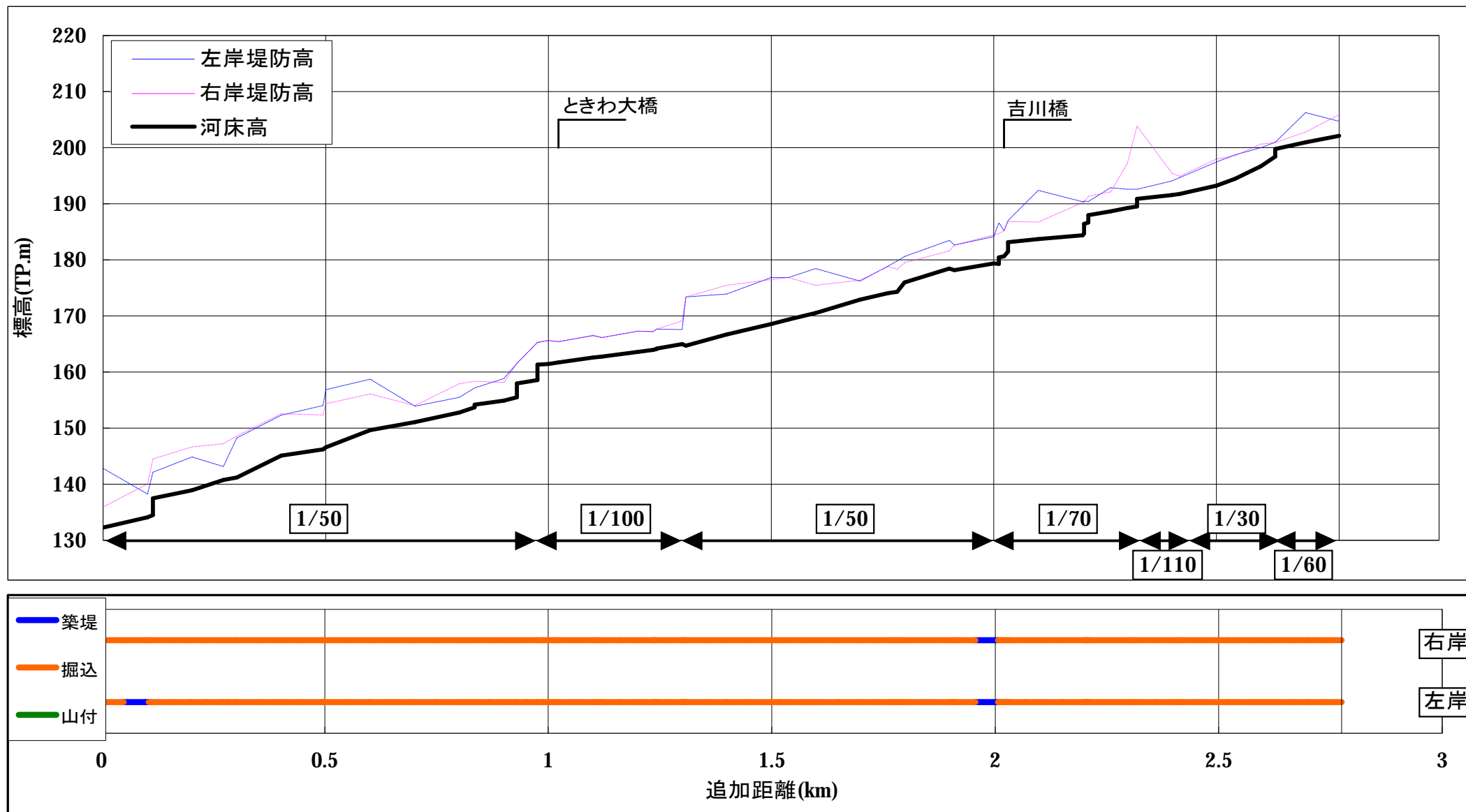
初谷川は妙見山につながる天台山、光明山を源とし、上流部は渓谷をなす指定区間延長2.775kmの一級河川で、川幅は10m程度で、河床勾配は約1/110~1/30です。

下流部は豊能町ときわ台や光風台の住宅地を流れ、兵庫県境に至り、一庫・大路次川に合流する。初谷川渓谷は大阪みどりの百景に選出され、自然豊かな河川となっている。





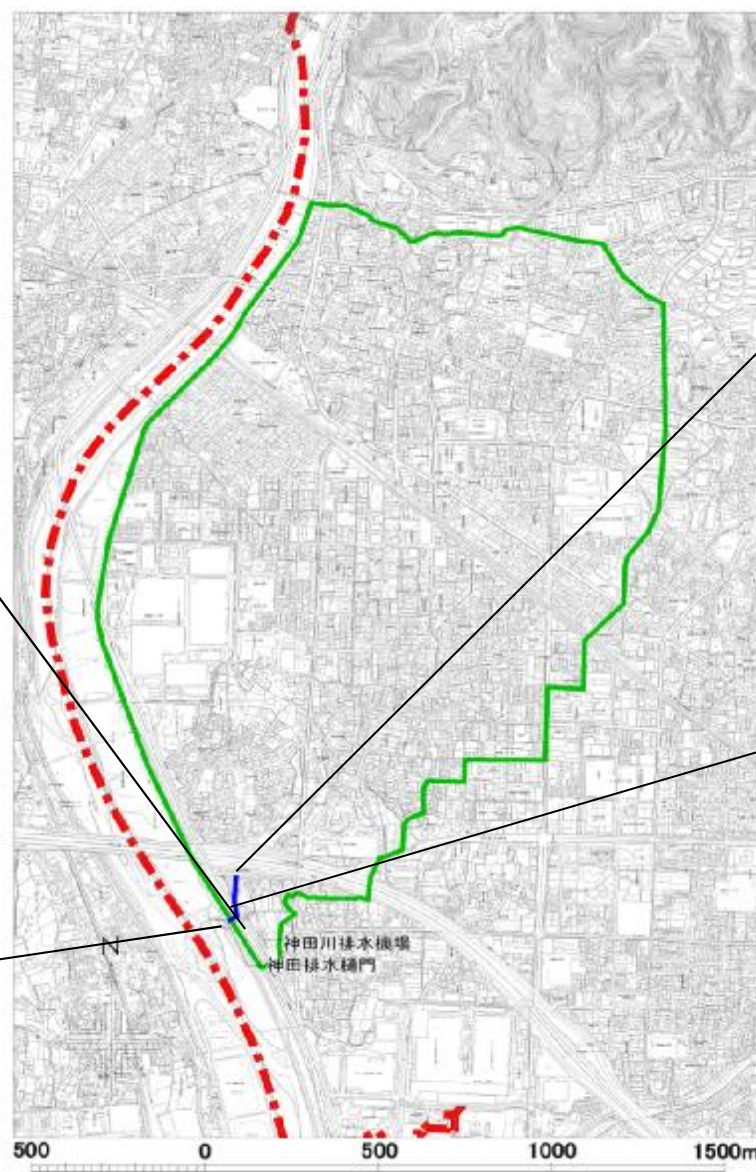
# 1. 猪名川下流ブロックの現状（初谷川 縦断形状）



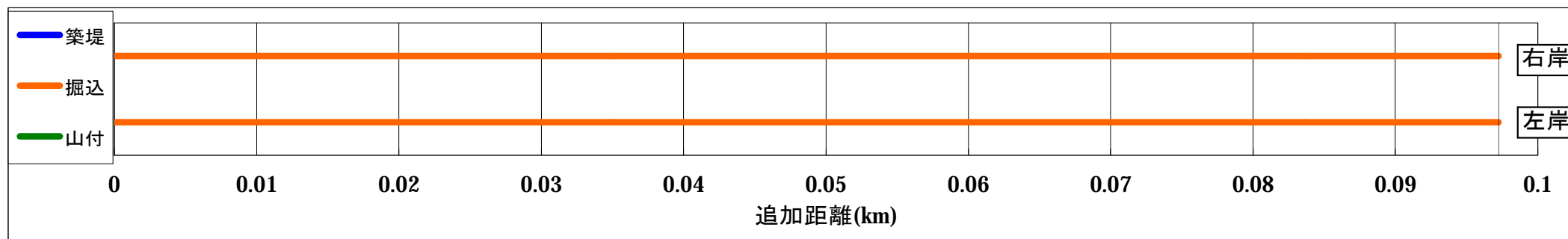
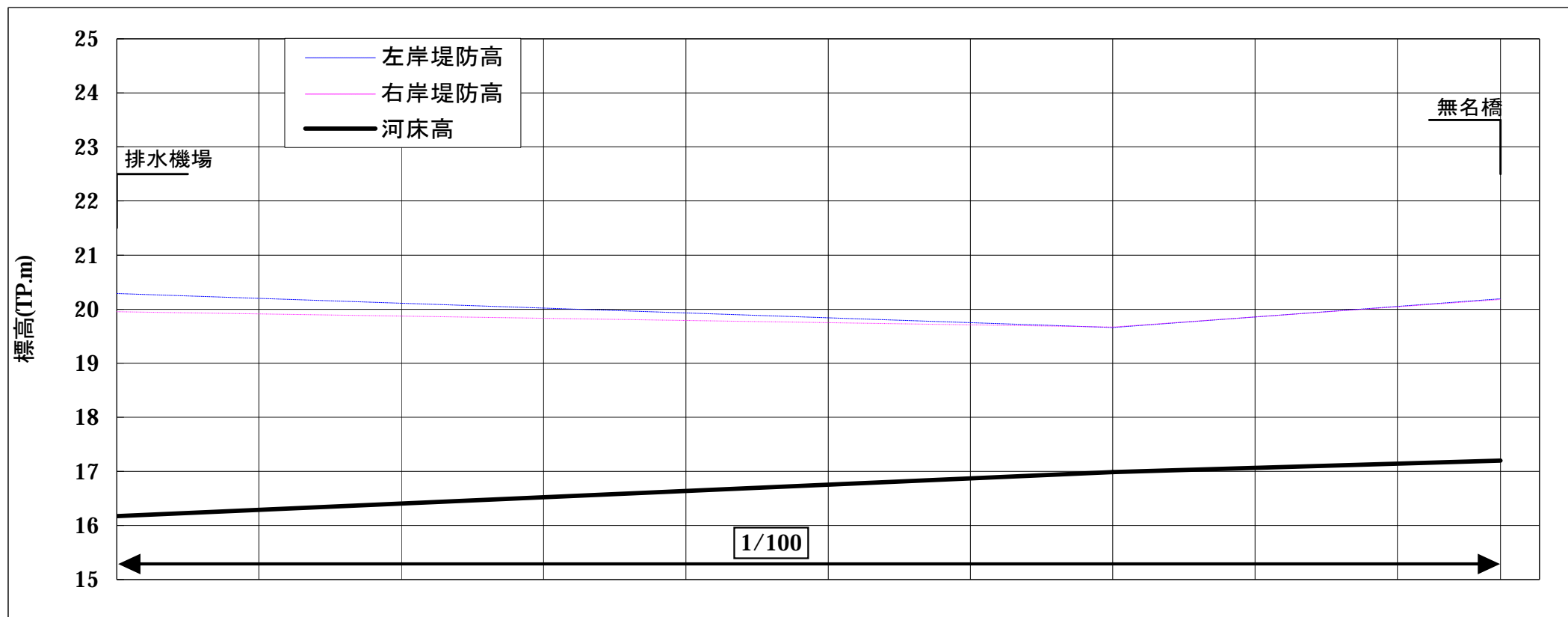
# 1. 猪名川下流ブロックの現状（神田川 縦断形状）

神田川は池田市内の雨水幹線を流域に持つ、指定区間延長0.070kmの一級河川で、川幅は6m程度、河床勾配は1/100程度である。

下流には神田川排水機場、神田排水樋門(ともに国土交通省管理)が設置されている。

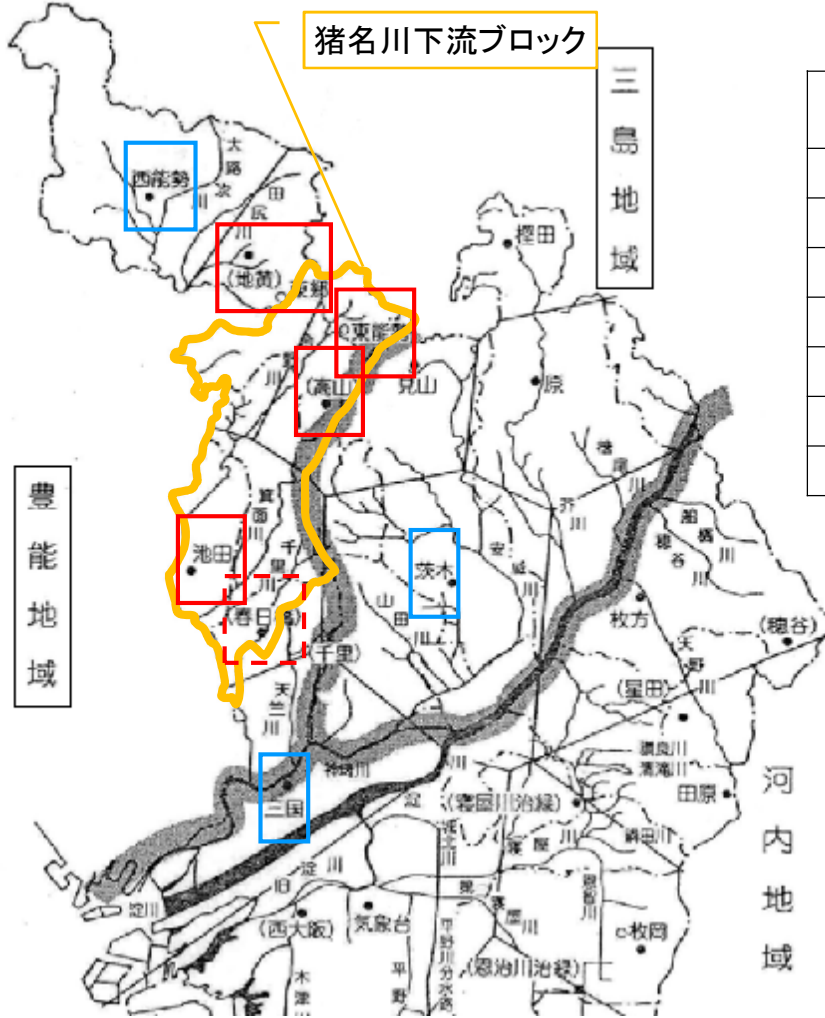


# 1. 猪名川下流ブロックの現状（神田川 縦断形状）



## 2. 治水計画の概要【計画降雨の検証】

猪名川下流ブロック周辺では、以下の地点で雨量観測が実施されている。  
 猪名川下流ブロックでは、雨量データが多く観測されており、雨量観測所のうち、支配面積が大きい池田観測所を代表観測所として、1時間雨量、日雨量を検証する。



猪名川下流ブロック周辺雨量観測所

観測所	設置年度	観測開始		降雨強度式	ブロック内	備考
		日雨量	時間雨量			
西能勢	昭和10年～	昭和22年	昭和28年	○		
池田	昭和11年～	昭和22年	昭和28年	○	○	
高山	昭和23年～	昭和23年	昭和28年	○	○	昭和58年以前は東能勢観測所
地黄	昭和21年～	昭和21年	昭和28年	○	○	旧名 東郷観測所
春日橋	平成4年～	平成4年	平成4年		○	
茨木	昭和14年～	昭和21年	昭和28年	○		
三国	昭和34年～	昭和26年	昭和29年	○		

豊能地域 ティーセン係数

西能勢	池田	東能勢 (高山)	東郷 (地黄)	茨木	三国	
0.331	0.253	0.132	0.181	0.017	0.086	1.000

⇒ 0.5      0.2      0.3      (ブロック内に占める割合)

猪名川下流ブロック内の観測所

豊能地域の雨量表記

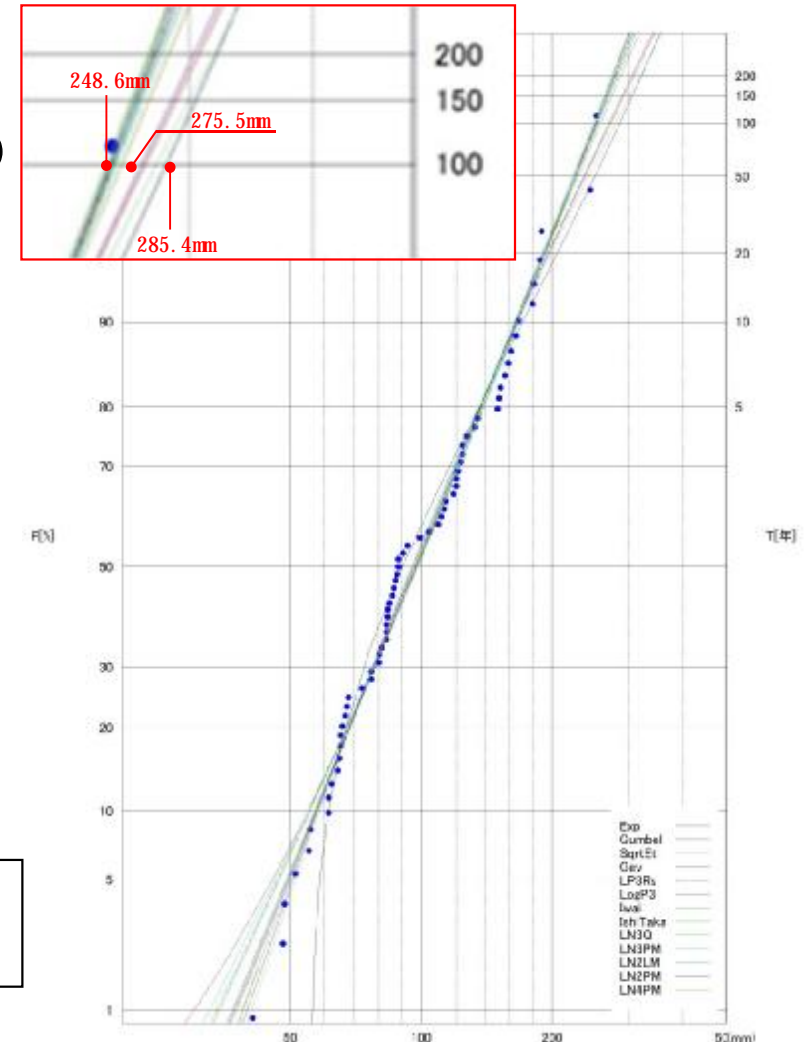
1/10	(豊能地域 58.4ミリ)	⇒ 時間雨量50ミリ程度
1/30	(豊能地域 71.5ミリ)	⇒ 時間雨量65ミリ程度
1/100	(豊能地域 85.5ミリ)	⇒ 時間雨量80ミリ程度
1/200	(豊能地域 93.5ミリ)	⇒ 時間雨量90ミリ程度

## 2. 治水計画の概要【計画降雨の検証】

対象雨量 池田観測所 日雨量(各年最大値)  
 雨量収集期間 N=67年間(昭和22年～平成25年)  
 評価確率 1/100(池田観測所1/100雨量 275.5mm、豊能地域1/100雨量 283.7mm)  
 評価方法 SLSC<0.04の確率分布モデルより算定される1/100雨量との比較

近年の降雨を追加(H8～H25のN=18年間)

池田観測所 1/100 ⇒ 248.6mm～285.4mm(平均261.0mm)  
 ⇒ 現行値 275.5mmは範囲内

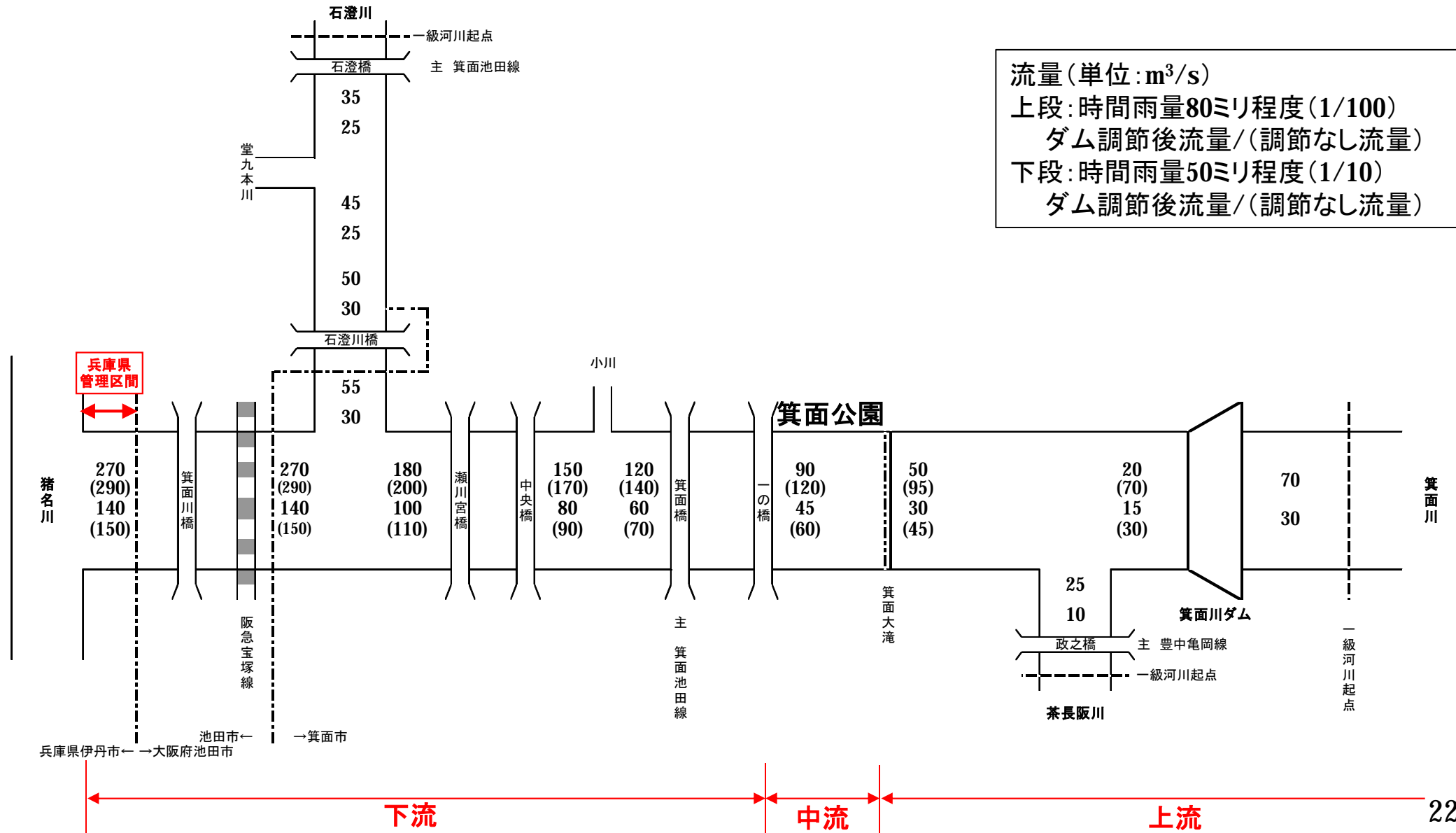


		池田観測所 時間雨量(S22-H25 N=67)												
		指数分布 Exp	グンベル分布 Gumbel	平方根指数型 最大値分布 SqrtEt	一般化 極値分布 Gev	対数ピアソン Ⅲ型分布 (実数空間法) LP3Rs	対数ピアソン Ⅲ型分布 (対数空間法) LogP3	岩井法 Iwai	石原・高瀬法 IshiTake	対数正規分布 3母数 クォンタイル法 LN3Q	対数正規分布 3母数 (Slade II) LN3PM	対数正規分布 2母数(Slade I.L.積率法) LN2LM	対数正規分布 2母数(Slade I. 積率法) LN2PM	平均
確率年	2	90.4	98.1	94.5	95.5	97.4	95.4	96.2	97.3	96.6	97.7	97.0	97.0	97.0
	3	110.6	117.4	113.1	114.2	117.0	114.2	115.2	116.8	115.4	117.3	116.0	115.8	116.0
	5	136.1	138.9	135.4	136.2	139.1	136.4	136.9	138.7	136.6	139.2	137.6	137.0	138.0
	7	152.9	152.2	150.1	150.5	152.7	150.7	150.7	152.3	149.9	152.7	151.1	150.3	152.0
	10	170.6	165.9	166.0	165.8	166.7	165.8	165.0	166.3	163.6	166.5	165.1	164.1	166.0
	20	205.2	191.7	197.9	196.1	193.0	195.7	192.6	192.7	189.6	192.4	191.9	190.5	195.0
	30	225.4	206.6	217.4	214.4	208.1	213.6	208.0	204.5	207.3	207.6	205.8	205.8	211.0
	40	239.7	217.1	231.6	227.7	218.7	226.6	220.4	218.8	215.1	217.8	218.7	216.7	223.0
	50	250.9	225.2	242.9	238.2	226.9	236.8	229.4	227.2	223.3	225.9	227.3	225.1	232.0
	60	259.9	231.9	252.3	246.9	233.6	245.3	236.8	234.0	230.0	232.5	234.4	232.1	240.0
	70	267.6	237.5	260.3	254.4	239.2	252.5	243.1	239.7	235.6	238.1	240.4	238.0	246.0
	80	274.3	242.3	267.4	260.9	244.1	258.9	248.6	244.8	240.5	242.9	245.7	243.1	252.0
	90	280.2	246.5	273.7	266.7	248.4	264.5	253.5	249.2	244.8	247.2	250.3	247.6	257.0
100	285.4	250.4	279.4	271.9	252.2	269.6	257.8	253.1	248.6	251.0	254.4	251.7	261.0	
150	305.6	265.0	301.7	292.4	266.9	289.5	274.7	268.4	263.4	265.7	270.5	267.4	278.0	
200	320.0	275.4	318.0	307.3	277.3	303.9	286.9	279.3	273.9	276.1	282.1	278.7	290.0	
300	340.2	290.0	341.7	328.7	292.0	324.8	304.2	294.7	288.6	290.9	298.5	294.8	308.0	
400	354.5	300.3	358.9	344.3	302.4	340.0	316.7	305.7	299.1	301.4	310.3	306.3	320.0	
SLSC		0.036	0.028	0.026	0.026	0.032	0.023	0.023	0.022	0.028	0.026	0.026		
相関係数(X)		0.985	0.991	0.989	0.990	0.991	0.992	0.992	0.990	0.992	0.992	0.992		
相関係数(P)		0.981	0.992	0.995	0.994	0.992	0.994	0.994	0.993	0.995	0.993	0.993		

※計画雨量は、近年の降雨データを追加して検証した結果、その範囲内に収まっていることから、現行計画の日雨量を踏襲する。

## 2. 治水計画の概要【箕面川 流量配分】

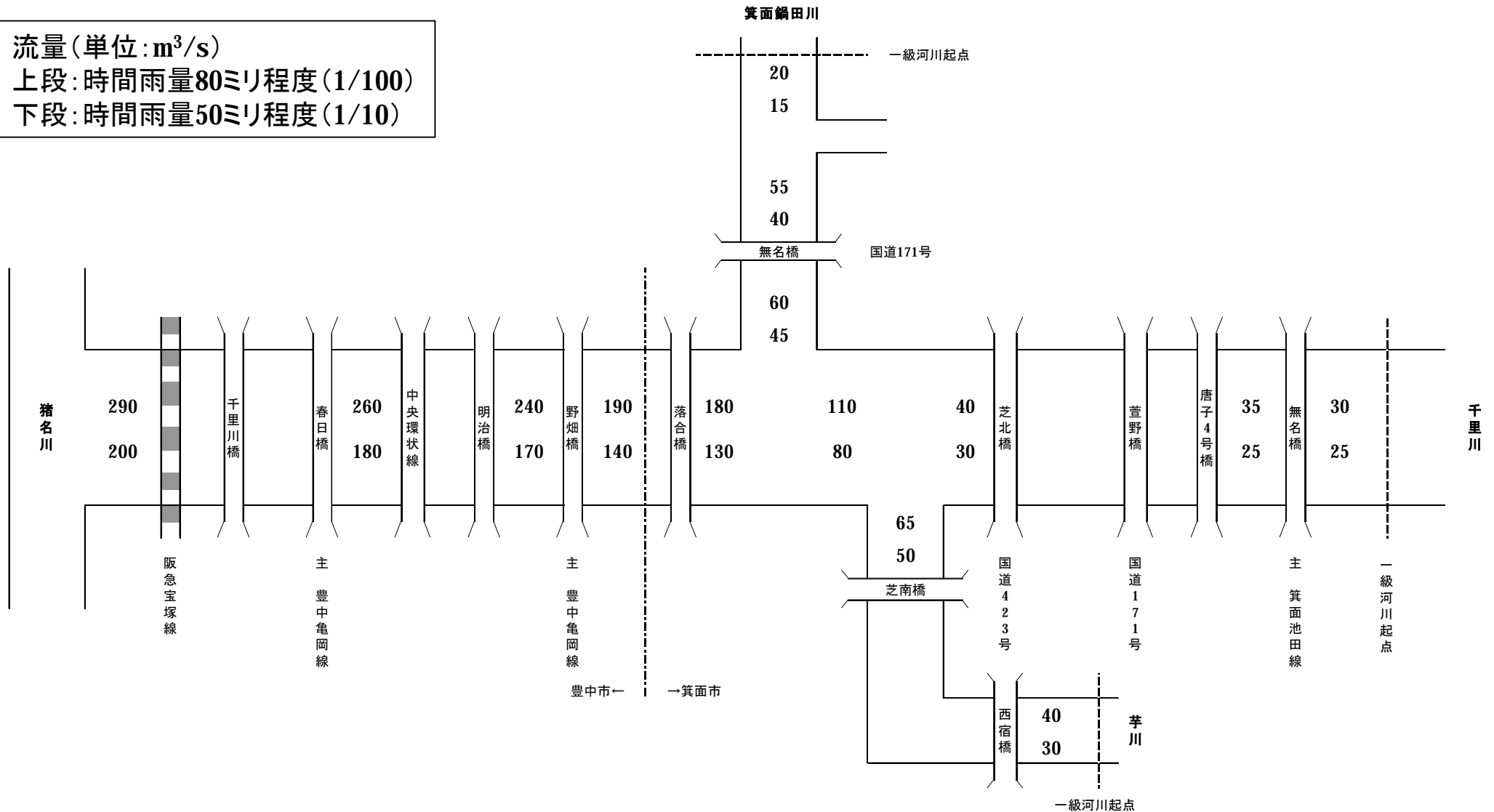
- 流出解析手法は、「等価粗度法(特性曲線法)」
- 計画降雨波形は、「昭和39年8月降雨型」
- 支川は、石澄川、茶長阪川の2河川



## 2. 治水計画の概要【千里川 流量配分】

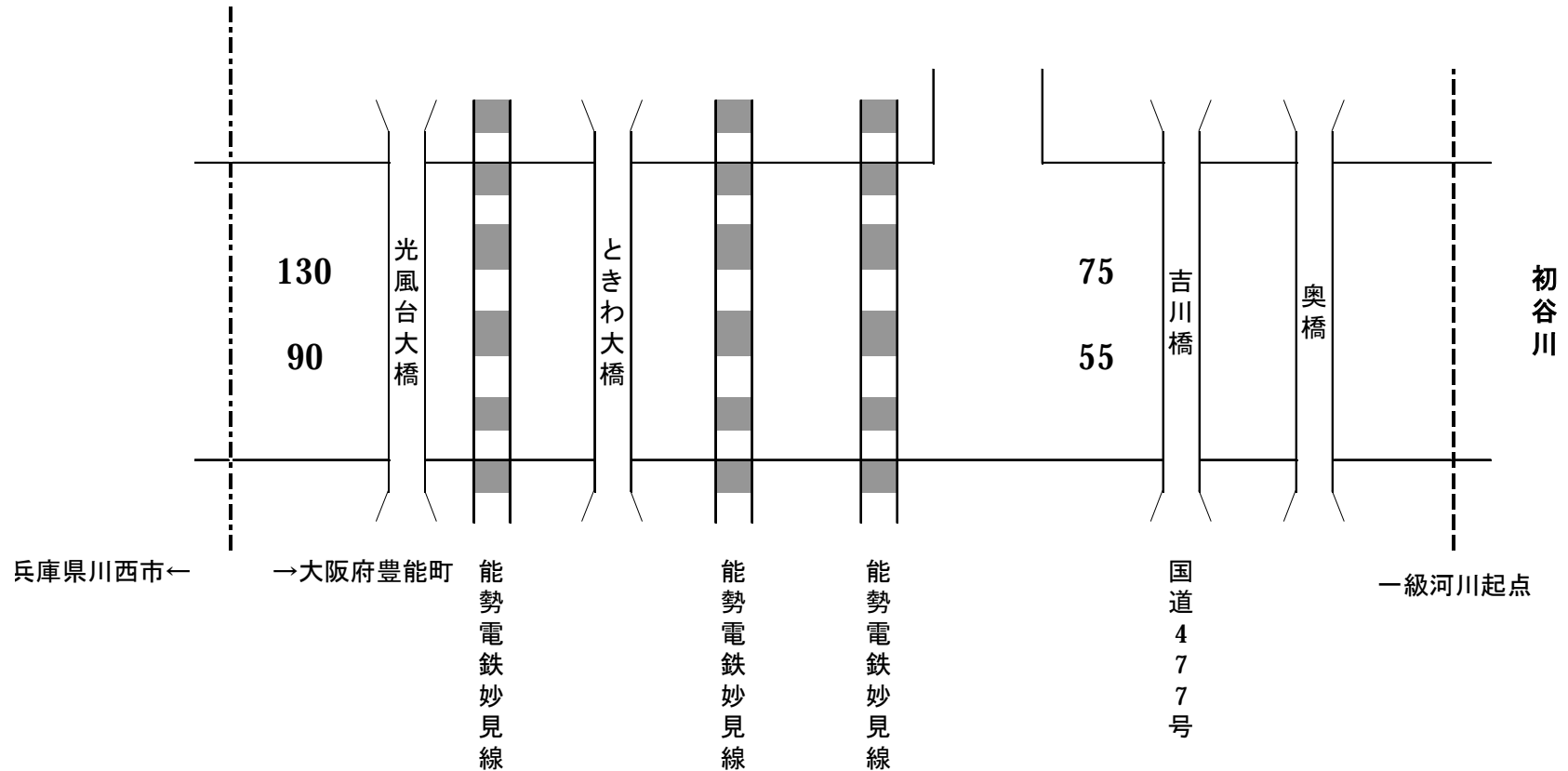
- 流出解析手法は、「合理式」
- 計画降雨波形は、「豊能地域中央集中型」
- 支川は、箕面鍋田川、芋川の2河川

流量(単位:m<sup>3</sup>/s)  
 上段:時間雨量80ミリ程度(1/100)  
 下段:時間雨量50ミリ程度(1/10)



## 2. 治水計画の概要【初谷川 流量配分】

- 流出解析手法は、「合理式」
- 計画降雨波形は、「豊能地域中央集中型」



流量(単位:m<sup>3</sup>/s)

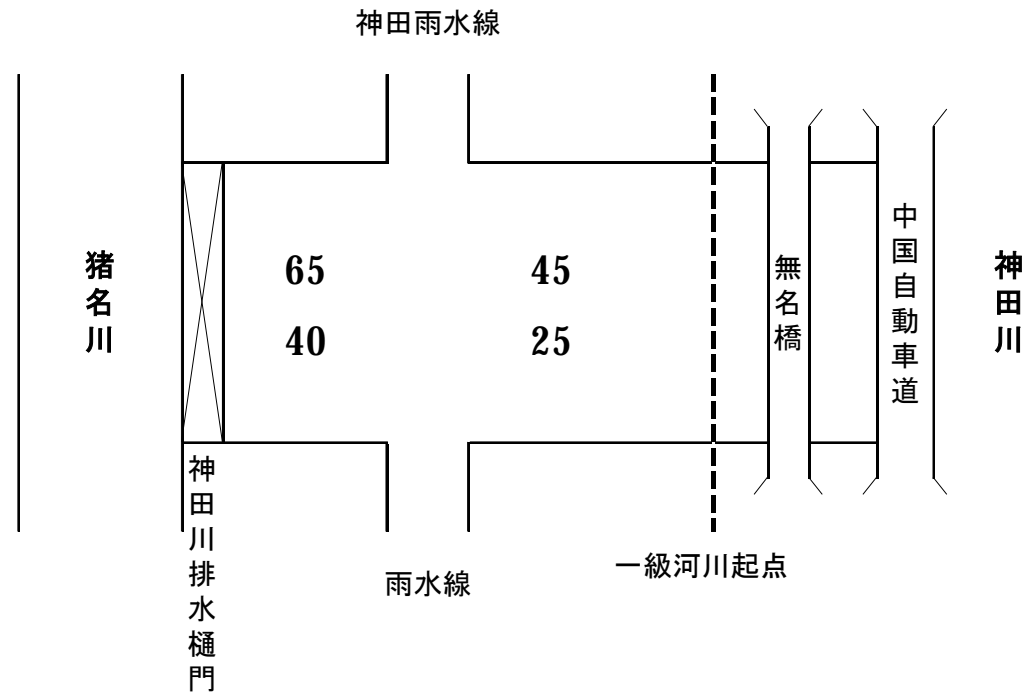
上段:時間雨量80ミリ程度(1/100)

下段:時間雨量50ミリ程度(1/10)



## 2. 治水計画の概要【神田川 流量配分】

- 流出解析手法は、「合理式」
- 計画降雨波形は、「豊能地域中央集中型」



流量(単位:m<sup>3</sup>/s)

上段:時間雨量80ミリ程度(1/100)

下段:時間雨量50ミリ程度(1/10)

### 3. 治水事業の概要【浸水被害】

猪名川下流ブロックでは、これまで多くの水害が発生している。特に昭和35年8月の台風16号による大雨（東能勢観測所で日雨量338mm、時間最大雨量52mmを観測）、昭和42年7月の梅雨前線による大雨（箕面観測所で日雨量266mm、時間最大雨量52mmを観測）では、広い範囲で浸水が発生し、人的・物的被害は甚大なものであった。

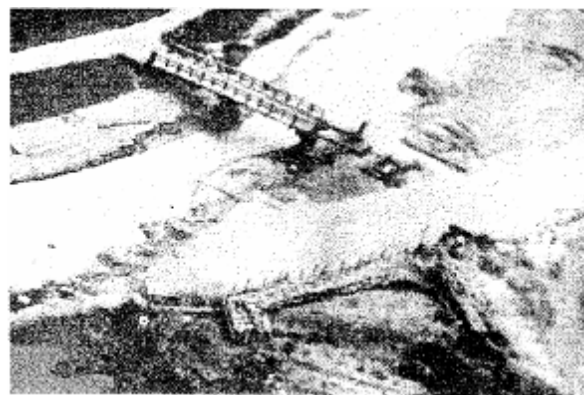
最近では、平成6年9月（上池田観測所で時間最大雨量133.5mmを観測）、平成18年8月（豊中観測所で時間最大雨量103mmを観測）といった集中豪雨が 발생し、内水浸水被害が発生している。



猪名川・久安寺川（現余野川）合流点付近  
（昭和35年8月）



箕面川 桜ヶ丘付近  
（昭和42年7月）



千里川 箕輪小橋付近  
（昭和42年7月）

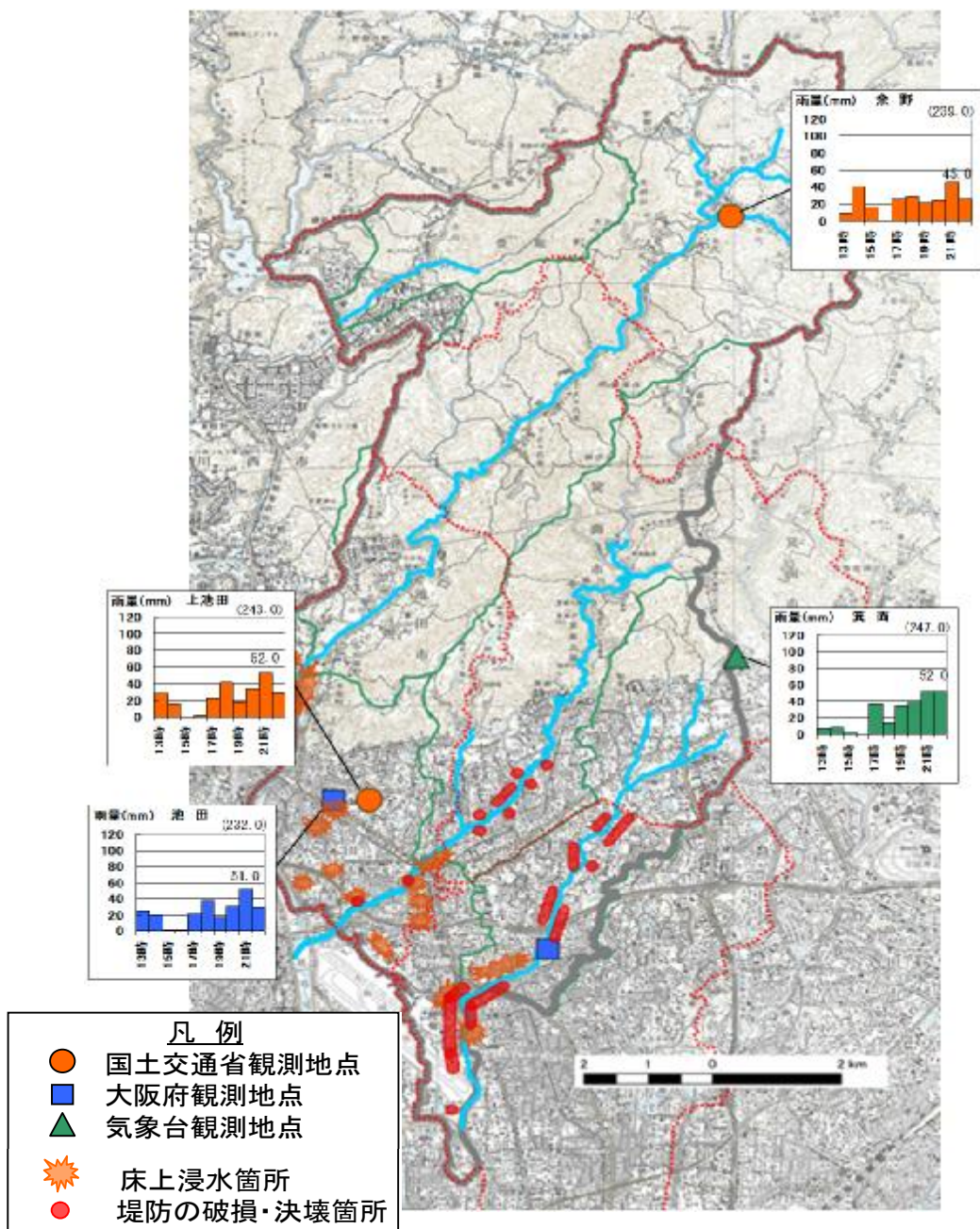


豊中市内  
（平成18年8月）

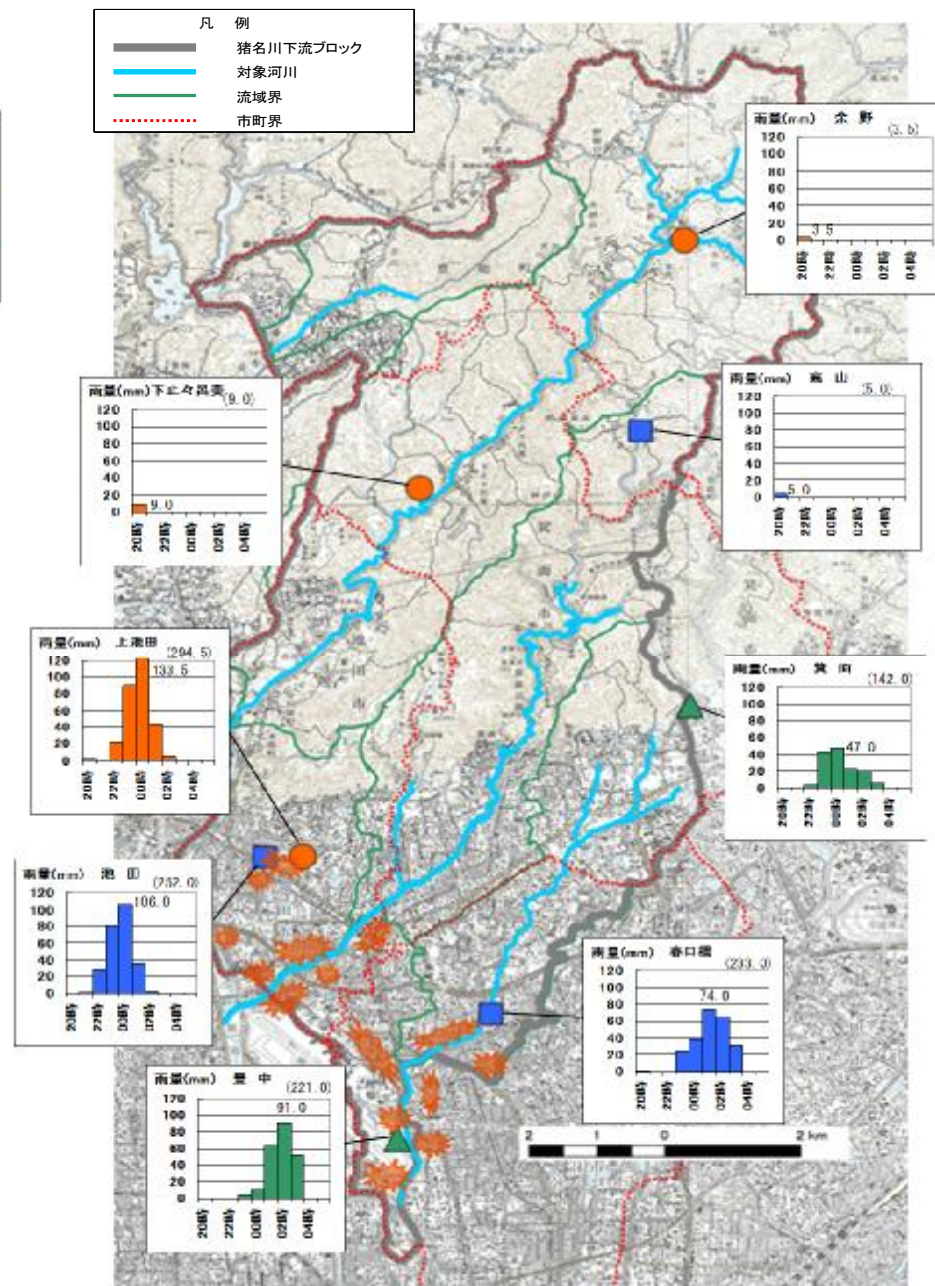


朝日新聞 夕刊  
（平成6年9月7日）

### 3. 治水事業の概要【浸水被害】



昭和42年7月



平成6年9月

### 3. 治水事業の概要【治水事業の沿革：切畑川、石田川、木代川】

切畑川では、平成5年度から、下流部の一部区間を除き、圃場整備事業と併せて、時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を対象とする改修を進め、一部区間を暫定断面形で改修した。

現状では、時間雨量50ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。

石田川では、平成7年度から、切畑川同様、圃場整備事業と併せて、時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を対象とする改修を進め、一部区間を暫定断面形で改修した。

現状では、上流部が時間雨量50ミリ程度で発生する洪水に対して安全でない状況である。

木代川では、本格的な河道の改修を行っていませんが、時間雨量50ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。

### 3. 治水事業の概要【治水事業の沿革：石澄川、茶長阪川】

石澄川では、流域内の市街化による流出量の増大に対処するため改修工事を実施し、昭和62年度末に時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を対象とする改修を完了している。  
現状では、時間雨量80ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。

茶長阪川では、山間部を流下する河川で、改修事業は実施していない。  
現状では、時間雨量80ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。

### 3. 治水事業の概要【治水事業の沿革：千里川、箕面鍋田川、芋川】

千里川は昭和42年7月豪雨を契機に、昭和43年に、時間雨量80ミリ程度で発生する洪水を対象とする改修計画が策定され、中小河川改修及び災害助成事業として改修に着手した。昭和53年末までに猪名川合流点～阪急宝塚線が本計画に基づき概成した。

昭和54年より、総合治水対策特定河川事業により改修工事を実施し、一級河川区間について、時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を対象とする改修を完了した。

現状では、時間雨量80ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。

箕面鍋田川は、昭和54年より、総合治水対策特定河川事業により改修工事を実施し、一級河川区域について、概ね時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を対象とする改修を完了している。

現状では、時間雨量80ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。

芋川では、昭和42年7月豪雨を契機として、概ね時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を対象とする改修を、昭和43年度より中小河川改修事業及び災害助成事業として着手し、昭和51年度末に一級河川区域の改修を完了している。

現状では、時間雨量80ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。

### 3. 治水事業の概要【治水事業の沿革：初谷川、神田川】

初谷川は光風台・新光風台団地の開発に伴い河川整備が進められた。  
ときわ台駅前の一部区間が土地区画整理にともない河川改修が実施される。  
現状では時間雨量50ミリ程度で発生する洪水に対して安全でない区間がある。

内水による浸水被害を防ぐため、昭和54年4月に一級河川の指定を受け、昭和61年度に国の直轄事業により神田川排水機場が完成した。  
時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を対象とする改修を完了している。  
現状では、時間雨量50ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。



神田川排水機場

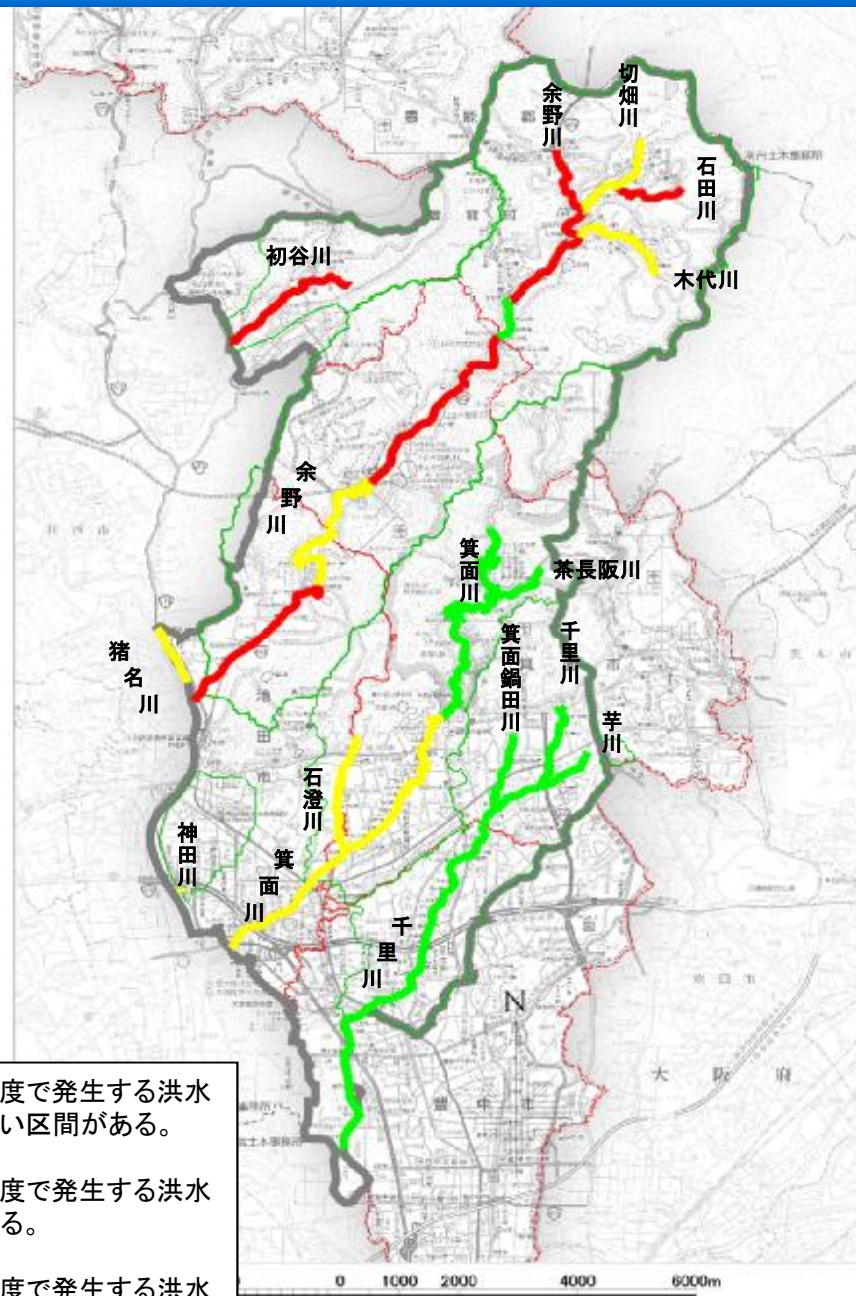
### 3. 治水事業の概要【治水上の課題】

猪名川下流ブロックの治水事業は、過去から実施されており、現在、千里川、箕面鍋田川、芋川、箕面川上流部、茶長阪川については、時間雨量80ミリ程度で発生する洪水を安全に流下することができる。

猪名川、切畑川、木代川、箕面川中下流、石澄川では時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を安全に流下することができる。

一方、余野川、石田川、初谷川では、時間雨量50ミリ程度で発生する洪水を安全に流下することができない区間がある。

河川	区間	整備状況	備考
猪名川		50ミリ程度対応済	
余野川	下流端～番匠屋橋	50ミリ程度未対応	
	番匠屋橋～砂子橋	50ミリ程度対応済	
	砂子橋～市町界	50ミリ程度未対応	
	市町界～金石橋	80ミリ程度対応済	
	金石橋～上流	50ミリ程度未対応	
木代川		50ミリ程度対応済	
切畑川		50ミリ程度対応済	
石田川		50ミリ程度未対応	
箕面川	下流端～一の橋	50ミリ程度対応済	
	一の橋～上流端	80ミリ程度対応済	
石澄川		50ミリ程度対応済	
茶長阪川		80ミリ程度対応済	
千里川		80ミリ程度対応済	
箕面鍋田川		80ミリ程度対応済	
芋川		80ミリ程度対応済	
初谷川		50ミリ程度未対応	
神田川		50ミリ程度対応済	



#### 凡例

- 時間雨量50ミリ程度で発生する洪水に対して安全でない区間がある。
- 時間雨量50ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。
- 時間雨量80ミリ程度で発生する洪水に対して安全である。

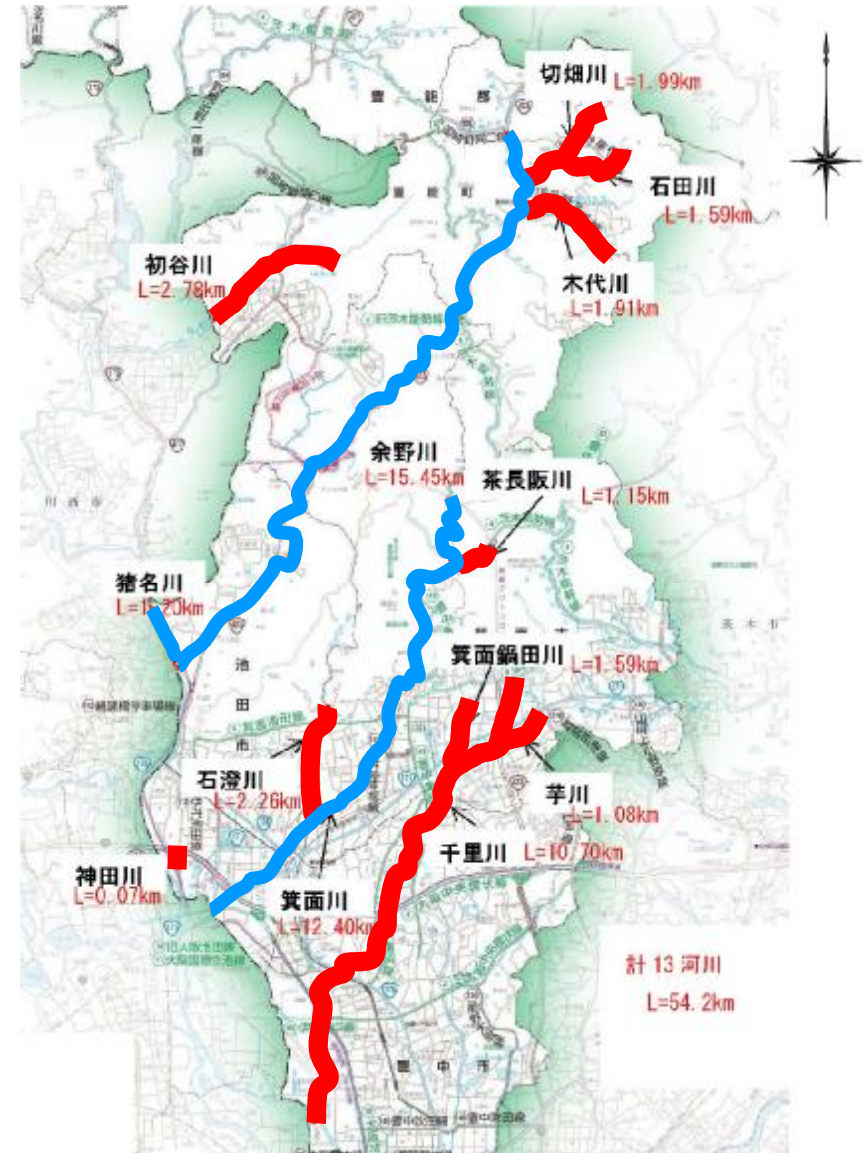
※50ミリ程度、80ミリ程度：豊能地区の確率雨量は、10年確率58.4ミリ、100年確率85.5ミリとなっています。



## 4. 当面の治水目標【審議対象河川】

○今回、当面の治水目標の審議対象河川は、猪名川、余野川、箕面川を除く、10河川

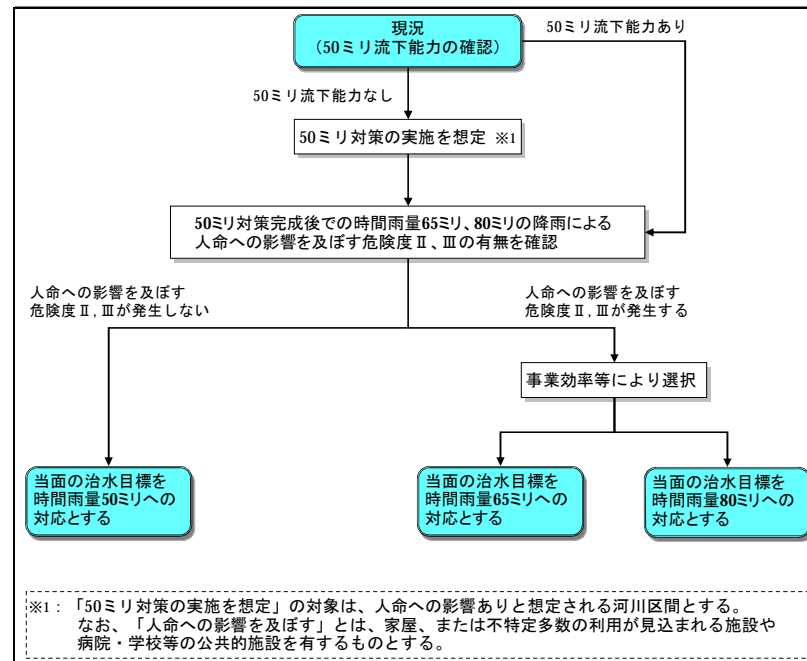
河川	延長(km)
淀川水系	
① 猪名川	1.20
② 余野川	15.45
③ 木代川	1.91
④ 切畑川	1.99
⑤ 石田川	1.59
⑥ 箕面川	12.40
⑦ 石澄川	2.26
⑧ 茶長阪川	1.15
⑨ 千里川	10.70
⑩ 箕面鍋田川	1.59
⑪ 芋川	1.08
⑫ 初谷川	2.78
⑬ 神田川	0.07
管理延長合計	54.17



## 4. 当面の治水目標【木代川：現況河道における氾濫解析の概要】

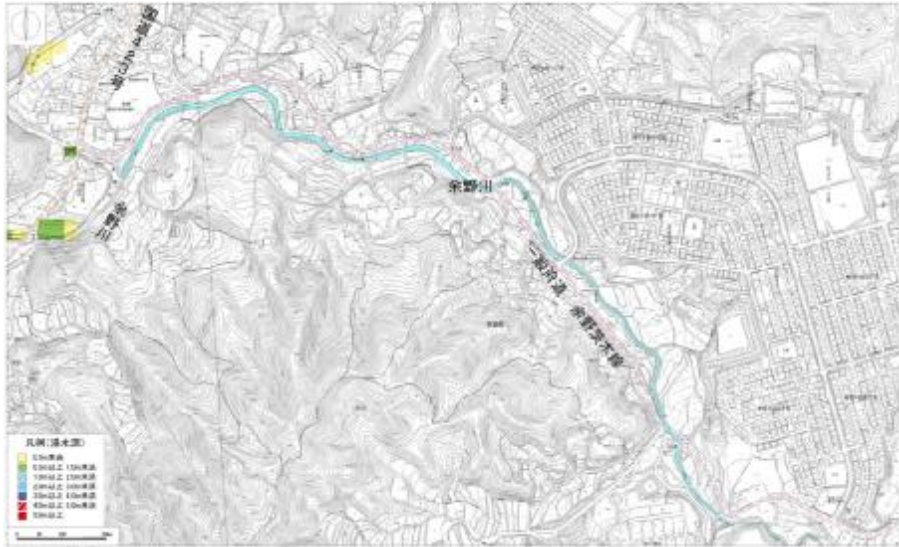
### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 余野川本川及び支川の木代川、切畑川、石田川についても同時に解析
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 築堤区間では解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点で破堤を想定
- 被害最大破堤地点より下流で、解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点についても破堤
- 氾濫原のメッシュサイズは、山間部を流下する河川で微地形を表現するため25mメッシュ

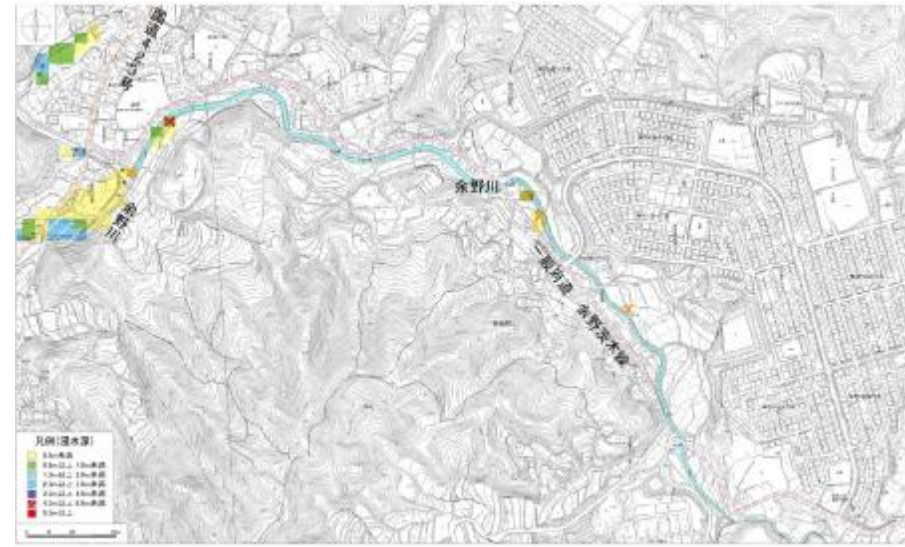


# 4. 当面の治水目標【木代川：現況河道における氾濫解析】

## 現況河道 氾濫解析結果



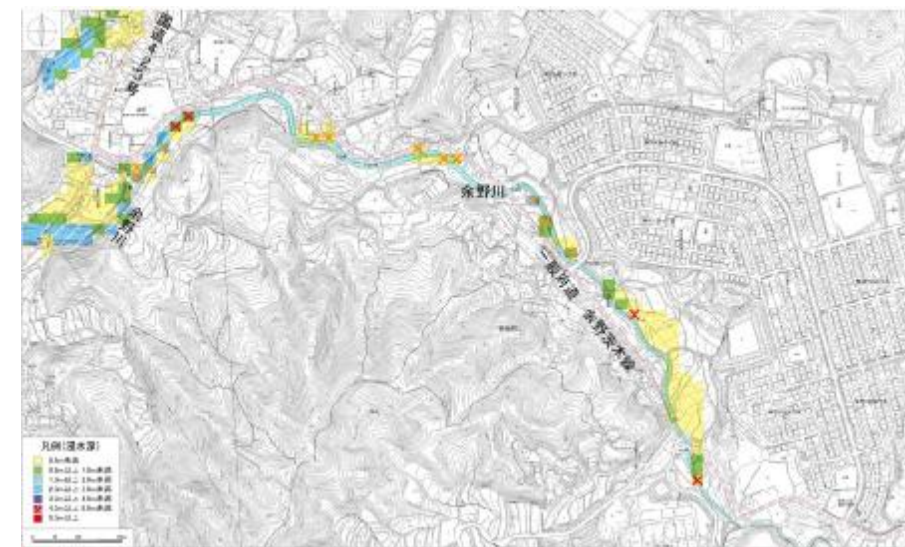
時間雨量50ミリ程度(1/10年)  
浸水なし



時間雨量65ミリ程度(1/30年)



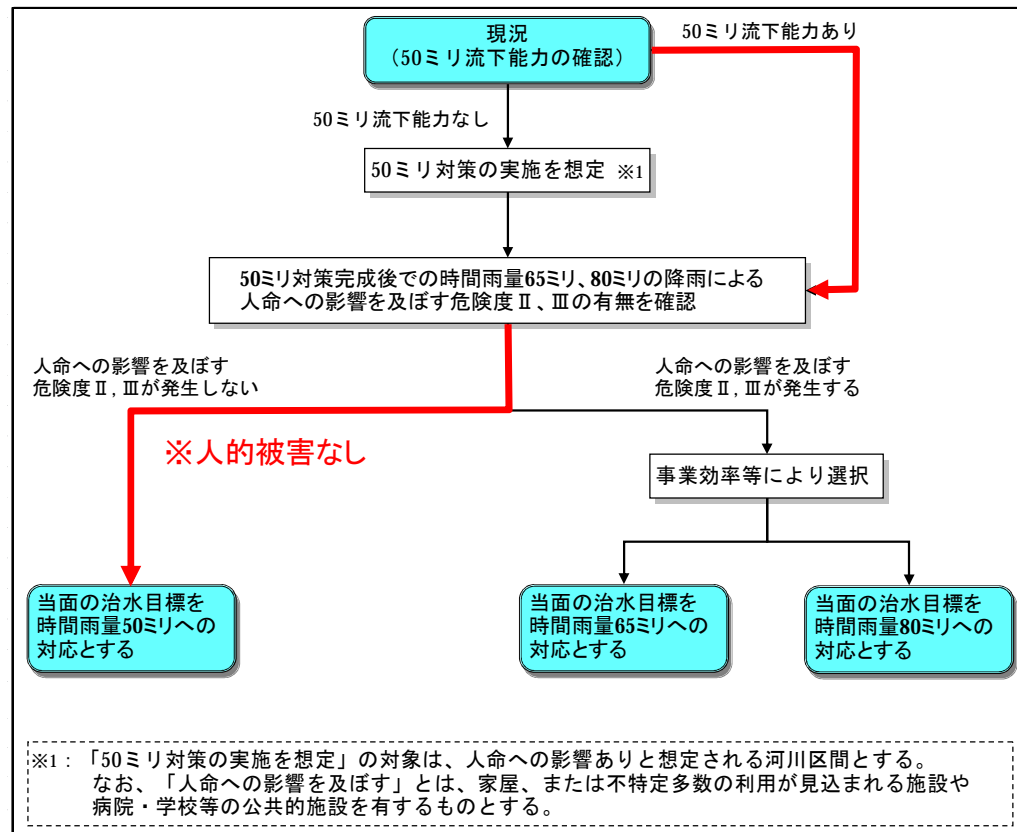
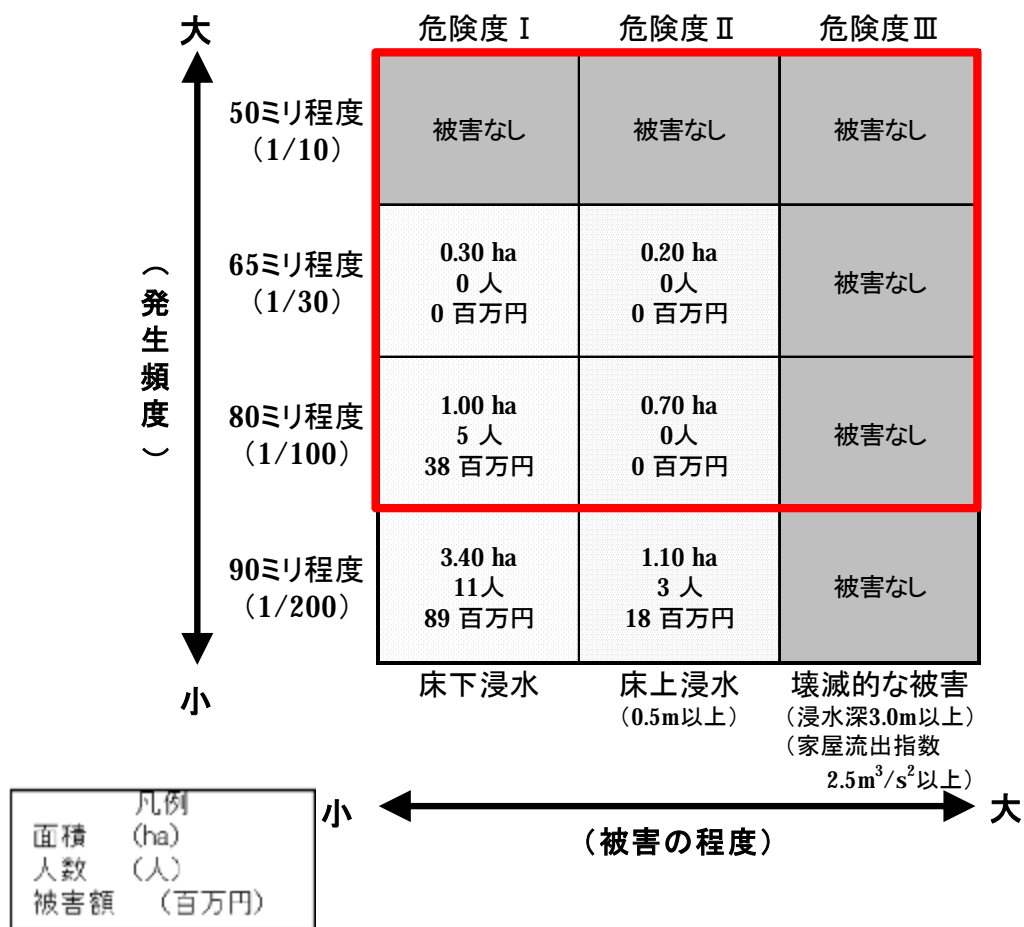
時間雨量80ミリ程度(1/100年)



時間雨量90ミリ程度(1/200年)

## 4. 当面の治水目標【木代川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の50ミリ程度の洪水では浸水被害が発生しない(65ミリ程度、80ミリ程度の洪水で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が発生する)。

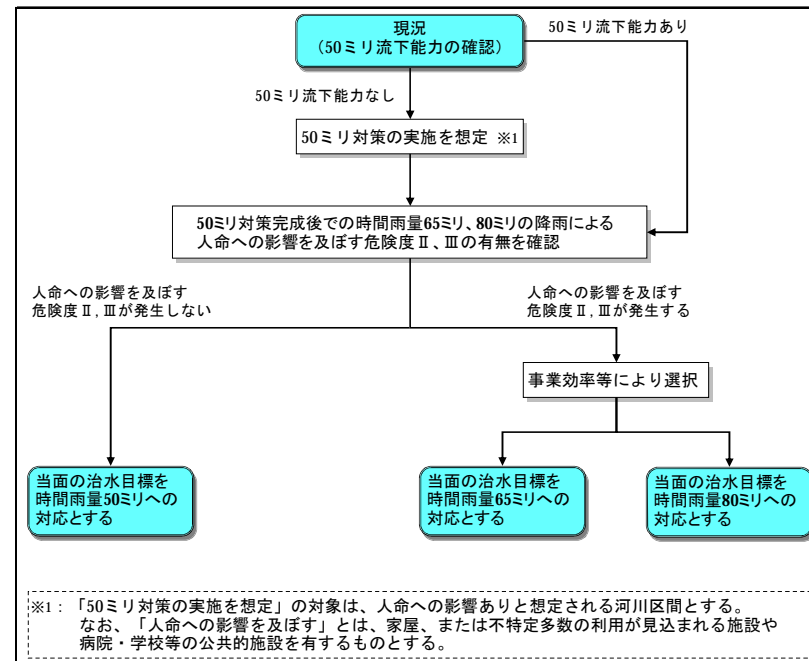


時間雨量65ミリ、80ミリ程度で危険度Ⅱ以上の人的被害が発生しないことから、当面の治水目標を『時間雨量50ミリ程度』とする。

## 4. 当面の治水目標【切畑川：現況河道における氾濫解析の概要】

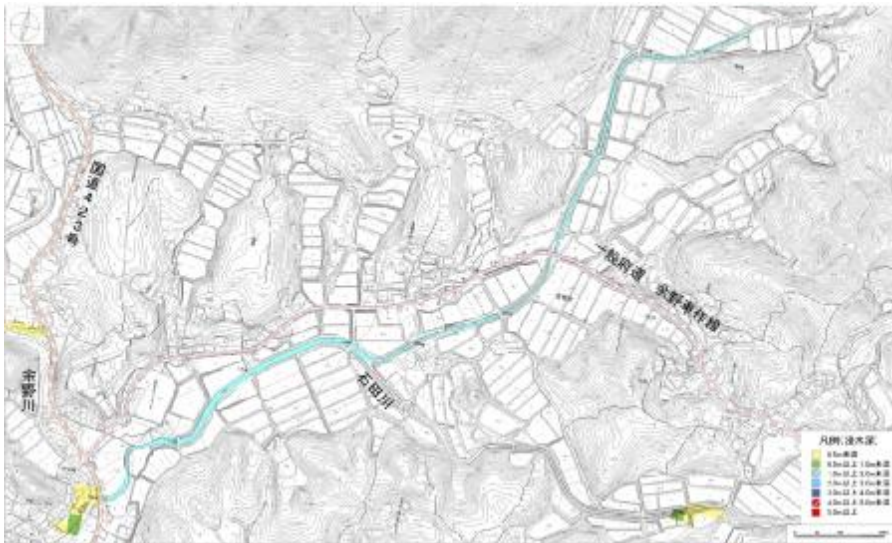
### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 余野川本川及び支川の木代川、切畑川、石田川についても同時に解析
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 築堤区間では解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点で破堤を想定
- 被害最大破堤地点より下流で、解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点についても破堤
- 氾濫原のメッシュサイズは、山間部を流下する河川で微地形を表現するため25mメッシュ

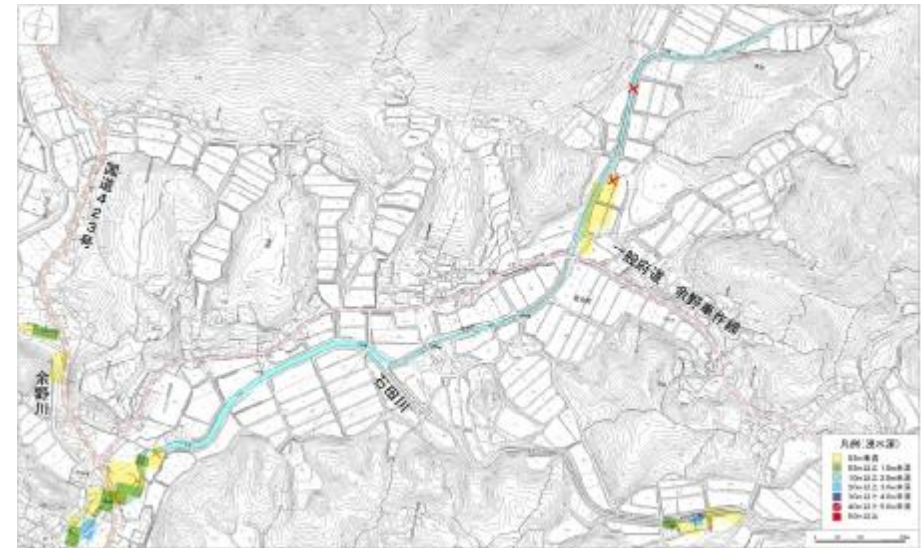


## 4. 当面の治水目標【切畑川：現況河道における氾濫解析】

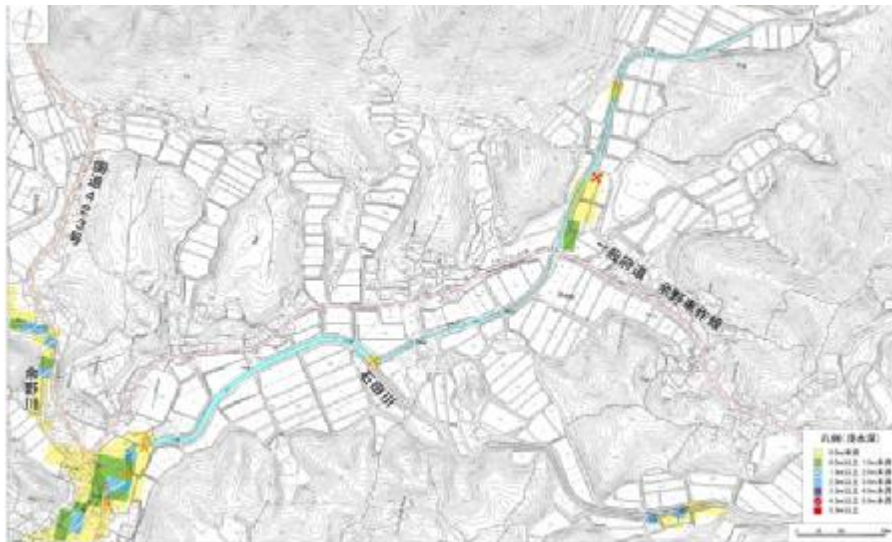
### 現況河道 氾濫解析結果



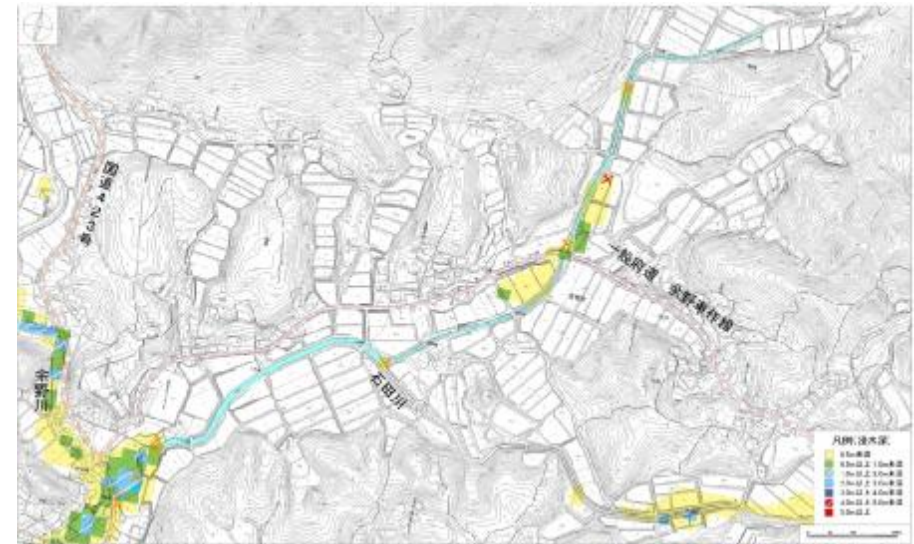
時間雨量50ミリ程度(1/10年)  
浸水なし



時間雨量65ミリ程度(1/30年)



時間雨量80ミリ程度(1/100年)



時間雨量90ミリ程度(1/200年)

# 4. 当面の治水目標【切畑川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の50ミリ程度の洪水では、浸水被害は発生しない(65ミリ程度、80ミリ程度の洪水で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が発生する)。

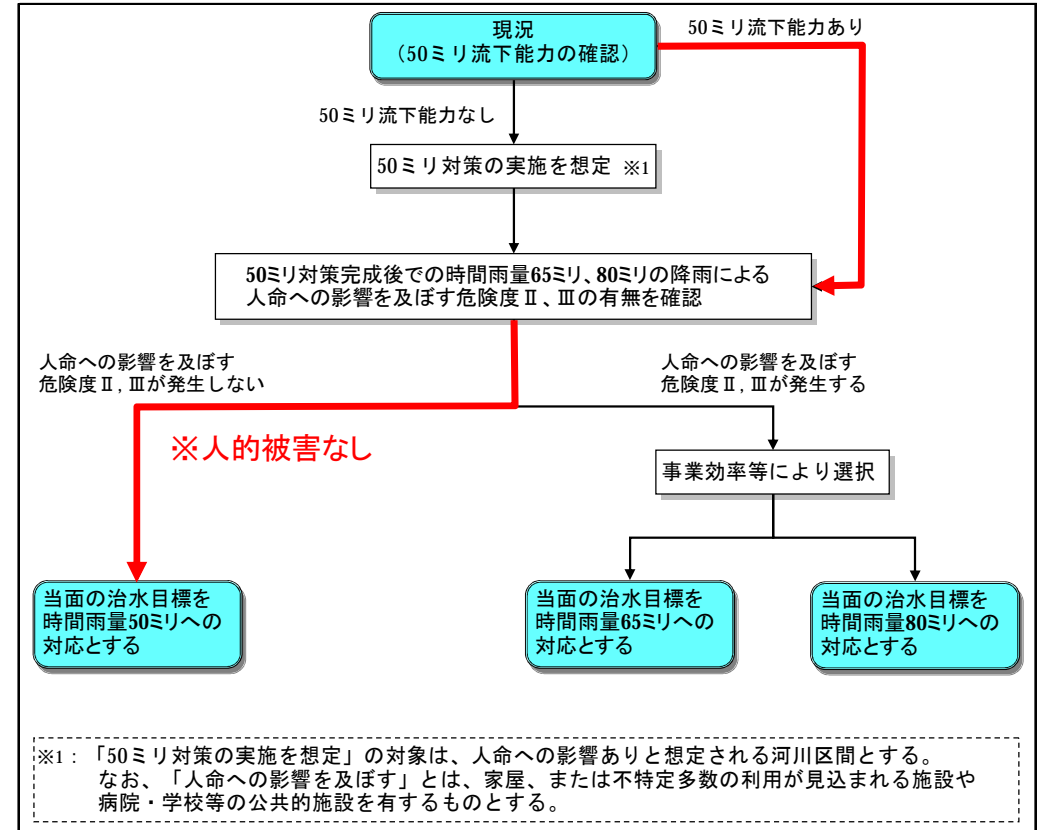
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ	
	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	1.30 ha 0人 0百万円	0.30 ha 0人 0百万円	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	3.20 ha 12人 79百万円	1.10 ha 0人 0百万円	被害なし
90ミリ程度 (1/200)	3.80 ha 17人 115百万円	2.00 ha 0人 3百万円	被害なし	
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)	
	小	(被害の程度) → 大		

凡例

面積 (ha)

人数 (人)

被害額 (百万円)

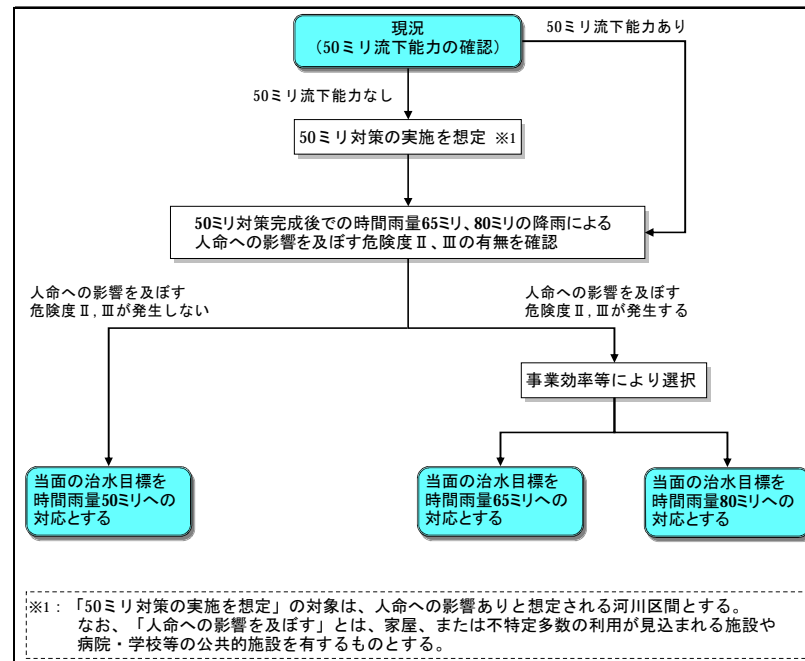


時間雨量65ミリ、80ミリ程度で危険度Ⅱ以上の人的被害が発生しないことから、当面の治水目標を『時間雨量50ミリ程度』とする。

# 4. 当面の治水目標【石田川：現況河道における氾濫解析の概要】

## ○氾濫シミュレーションの前提条件

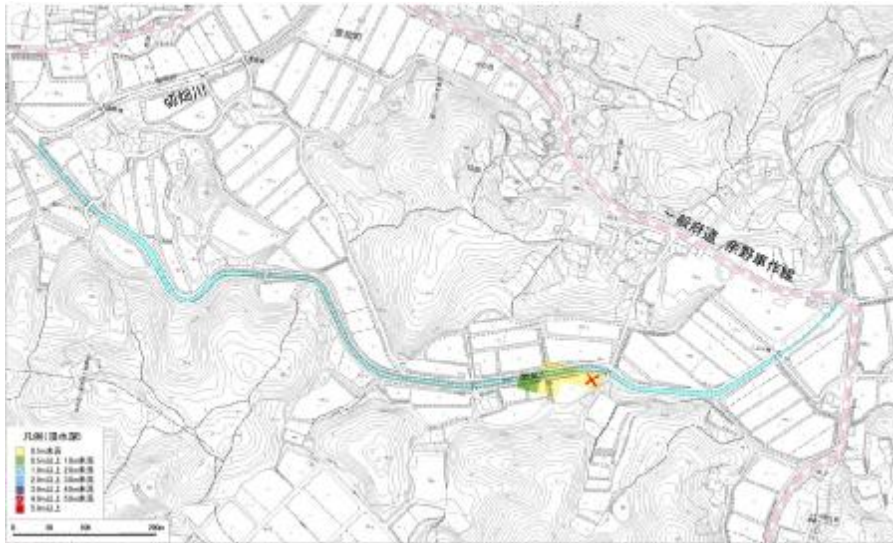
- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 余野川本川及び支川の木代川、切畑川、石田川についても同時に解析
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 築堤区間では解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点で破堤を想定
- 被害最大破堤地点より下流で、解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点についても破堤
- 氾濫原のメッシュサイズは、山間部を流下する河川で微地形を表現するため25mメッシュ





# 4. 当面の治水目標【石田川：現況河道における氾濫解析】

## 現況河道 氾濫解析結果



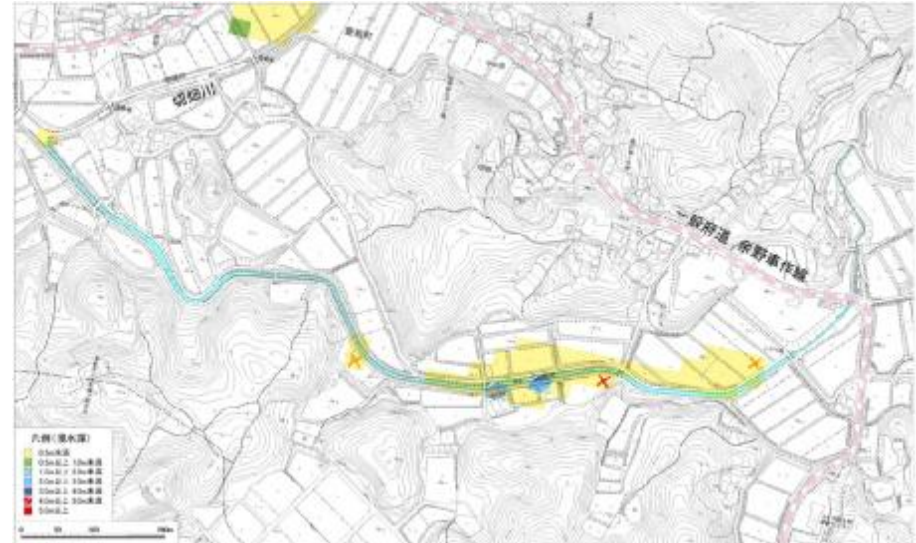
時間雨量50ミリ程度(1/10年)



時間雨量65ミリ程度(1/30年)



時間雨量80ミリ程度(1/100年)



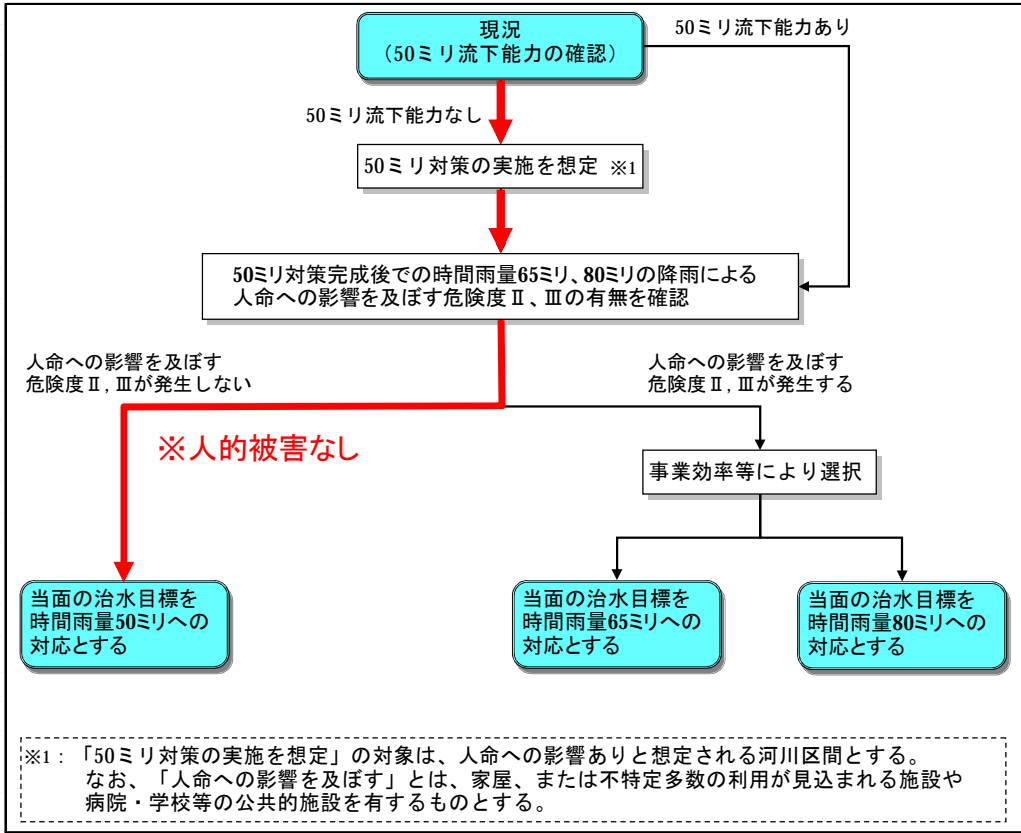
時間雨量90ミリ程度(1/200年)

# 4. 当面の治水目標【石田川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の50ミリ程度の洪水で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が発生するが人的被害はない。

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
発生頻度 (大 → 小)	50ミリ程度 (1/10)	0.30 ha 0人 0百万円	0.10 ha 0人 0百万円	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	0.40 ha 0人 1百万円	0.10 ha 0人 0百万円	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	0.40 ha 0人 1百万円	0.10 ha 0人 0百万円	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	2.30 ha 0人 1百万円	0.10 ha 0人 0百万円	被害なし
		床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)
		小 ←		→ 大
		(被害の程度)		

凡例
面積 (ha)
人数 (人)
被害額 (百万円)

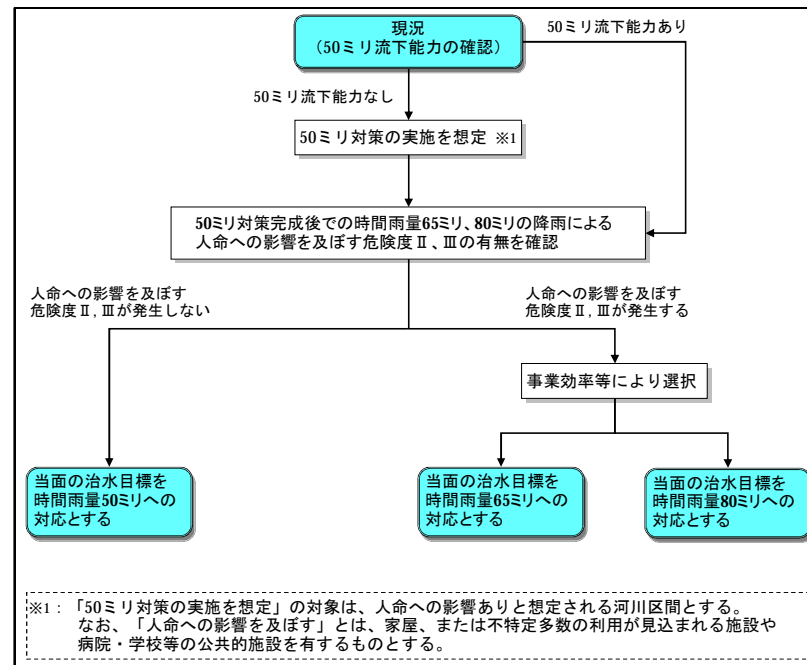


時間雨量65ミリ、80ミリ程度で危険度Ⅱ以上の人的被害が発生しないことから、当面の治水目標を『時間雨量50ミリ程度』とする。

## 4. 当面の治水目標【石澄川：現況河道における氾濫解析の概要】

### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は「箕面川ダム」計画で用いられた「昭和35年8月型」とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 箕面川本川及び支川の石澄川、茶長阪川についても同時に解析
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは、50mメッシュ



## 4. 当面の治水目標【石澄川：現況河道における氾濫解析】

### 現況河道 氾濫解析結果



時間雨量50ミリ程度  
(1/10年)  
浸水なし



時間雨量65ミリ程度  
(1/30年)  
浸水なし



時間雨量80ミリ程度  
(1/100年)  
浸水なし



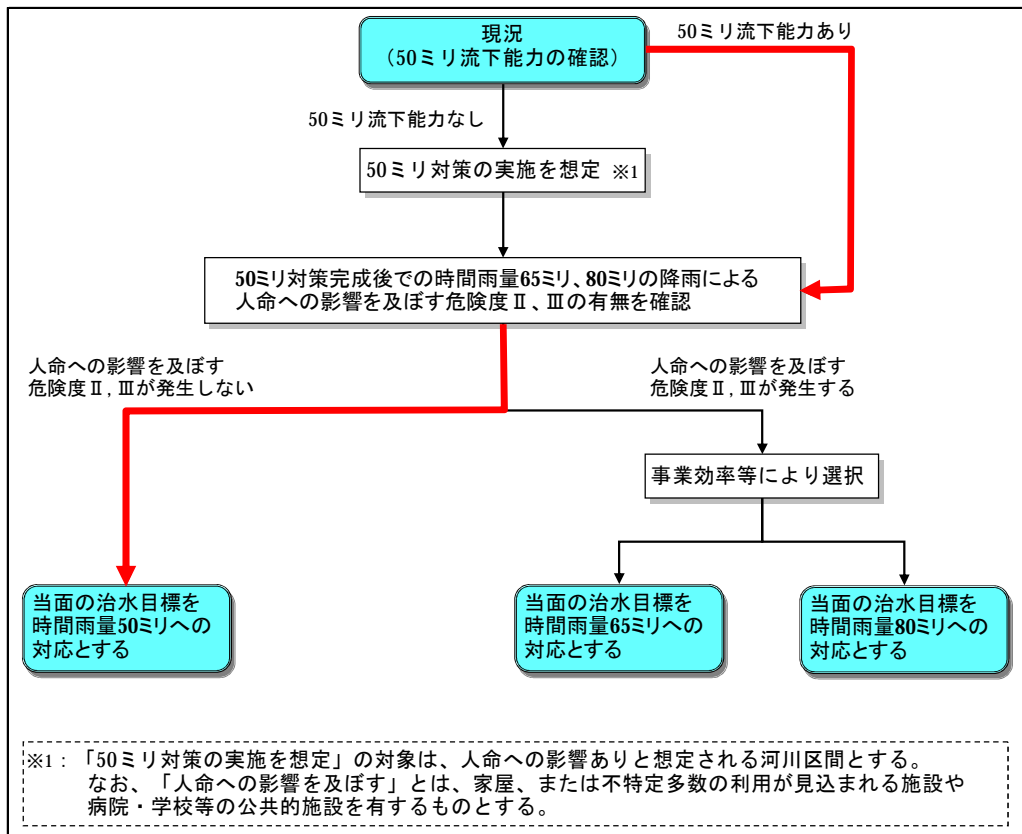
時間雨量90ミリ程度  
(1/200年)

# 4. 当面の治水目標【石澄川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の80ミリ程度の洪水では浸水被害が発生しない(90ミリ程度の洪水で危険度Ⅰの被害が発生する)。

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 50mm程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
65mm程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80mm程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
90mm程度 (1/200)	1.50 ha 153 人 193 百万円	被害なし	被害なし
小	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)
(発生頻度)	(被害の程度)		

凡例
面積 (ha)
人数 (人)
被害額 (百万円)

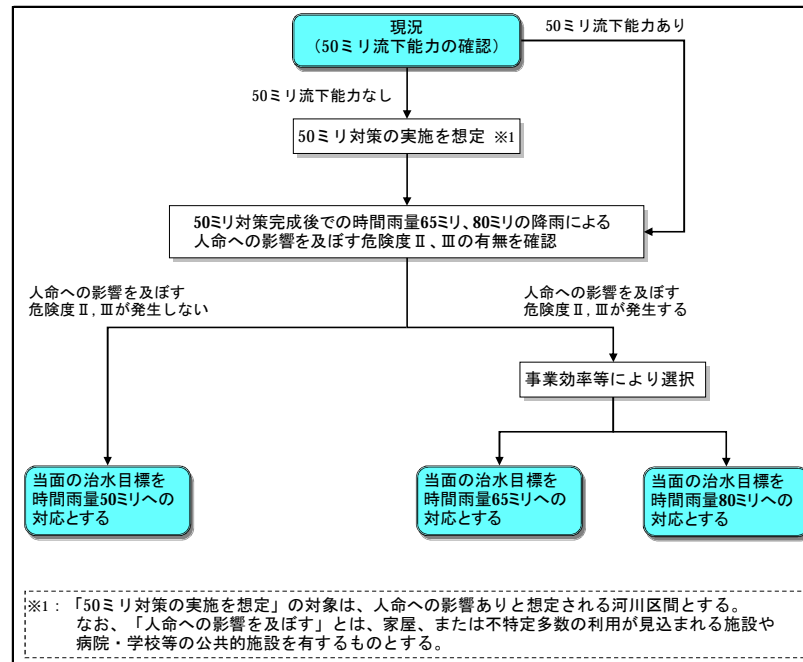


当面の治水目標を『現状維持』とする。

## 4. 当面の治水目標【茶長阪川：現況河道における氾濫解析の概要】

### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は「箕面川ダム」計画で用いられた「昭和35年8月型」とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 箕面川本川及び支川の石澄川、茶長阪川についても同時に解析
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは、50mメッシュ



# 4. 当面の治水目標【茶長阪川：現況河道における氾濫解析】

## 現況河道 氾濫解析結果



時間雨量50ミリ程度(1/10年)  
浸水なし



時間雨量65ミリ程度(1/30年)  
浸水なし



時間雨量80ミリ程度(1/100年)  
浸水なし



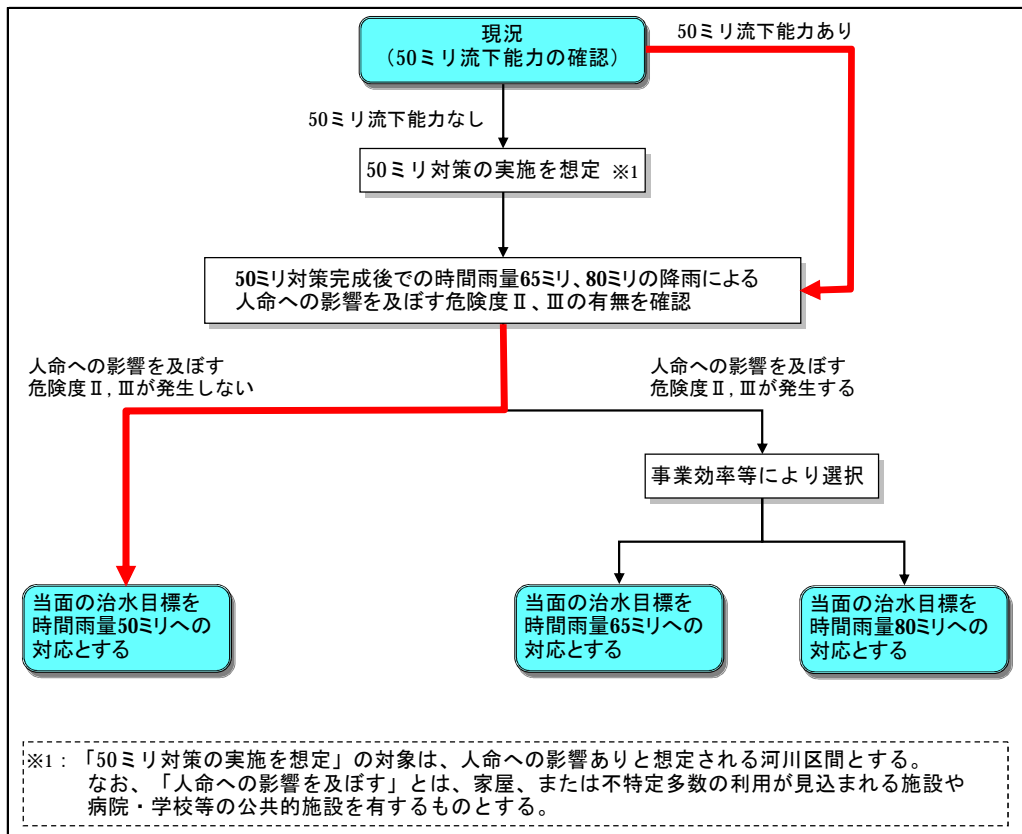
時間雨量90ミリ程度(1/200年)  
浸水なし

# 4. 当面の治水目標【茶長阪川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の90ミリ程度の洪水でも浸水被害が発生しない。

大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ	
	50mm程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65mm程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80mm程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
	90mm程度 (1/200)	被害なし	被害なし	被害なし
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 $2.5\text{m}^3/\text{s}^2$ 以上)	
	小 ← (被害の程度) → 大			

凡例
面積 (ha)
人数 (人)
被害額 (百万円)



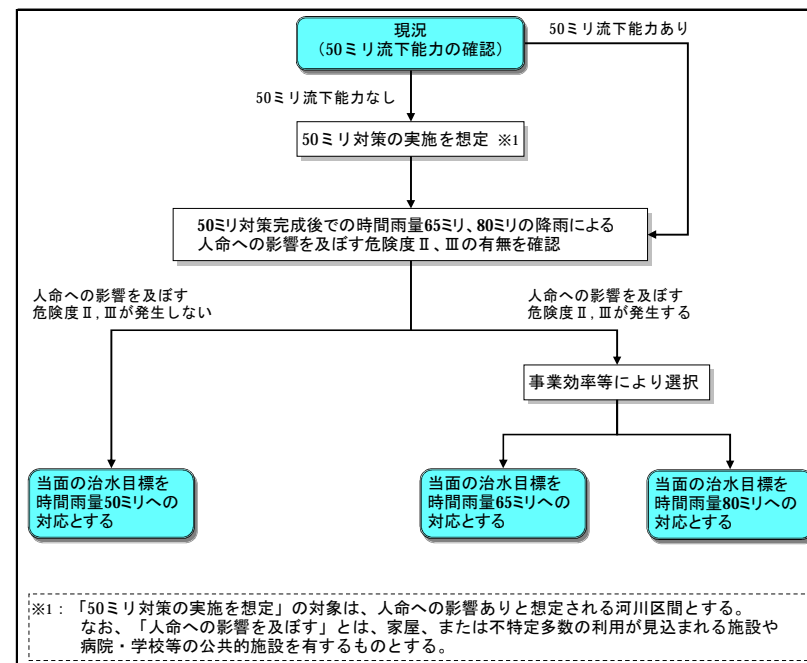
当面の治水目標を『現状維持』とする。



## 4. 当面の治水目標【千里川：現況河道における氾濫解析の概要】

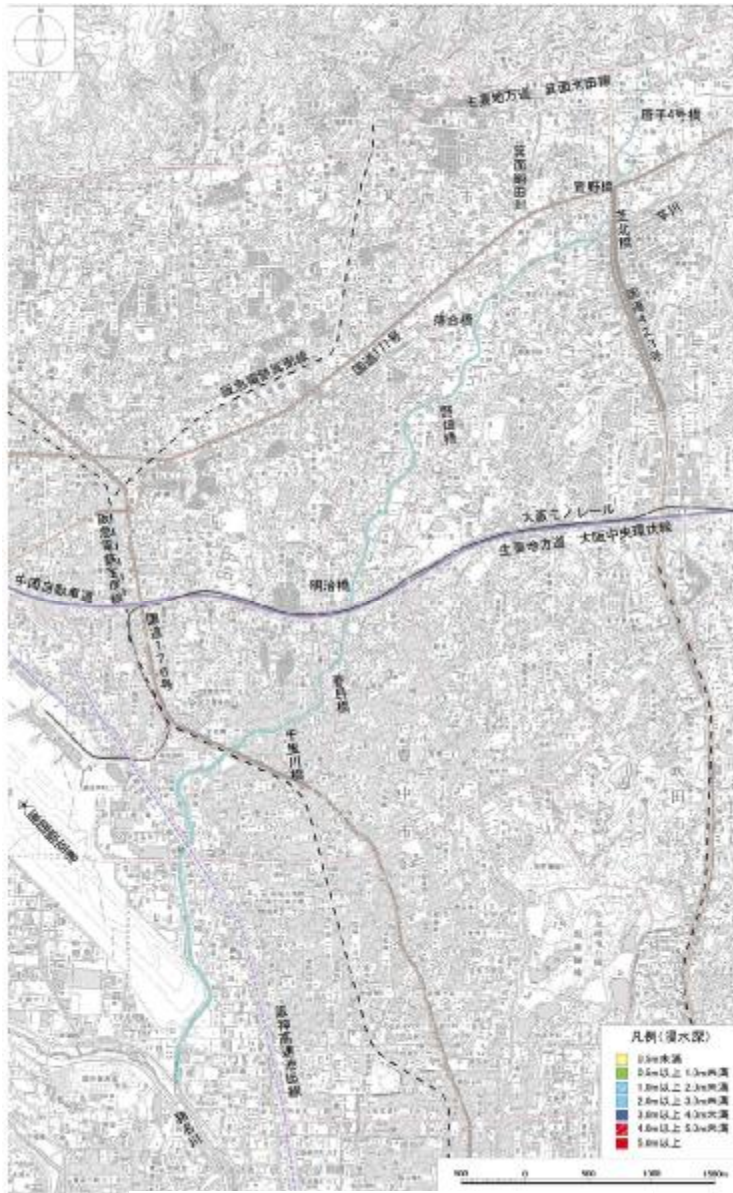
### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 千里川本川及び支川の箕面鍋田川、芋川についても同時に解析
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 築堤区間では解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点で破堤を想定
- 被害最大破堤地点より下流で、解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点についても破堤
- 氾濫原のメッシュサイズは、50mメッシュ

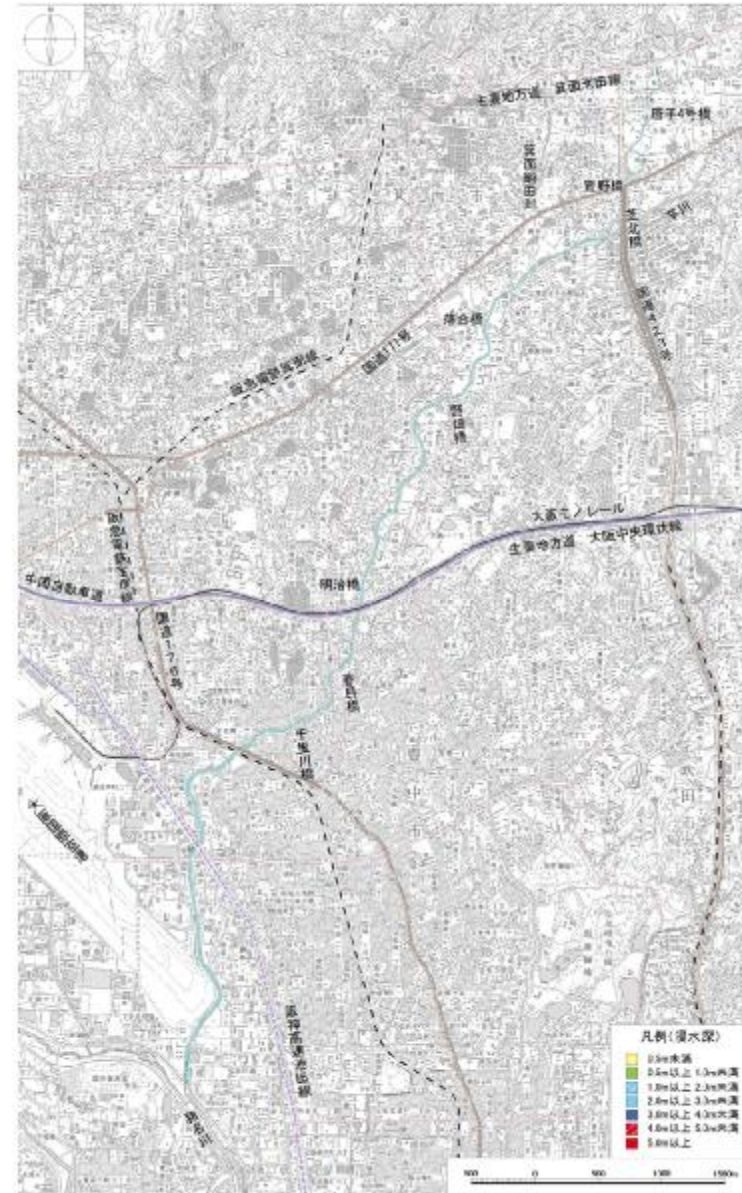


# 4. 当面の治水目標【千里川：現況河道における氾濫解析】

## 現況河道 氾濫解析結果



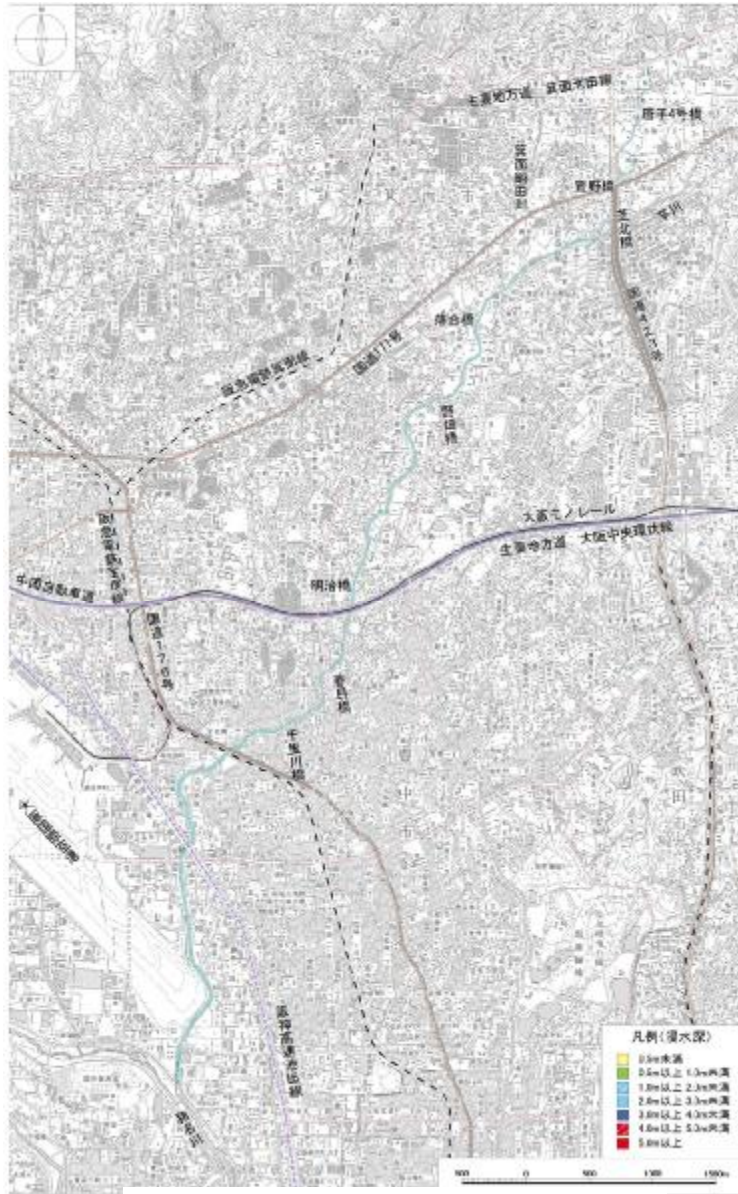
時間雨量50ミリ程度(1/10年)  
浸水なし



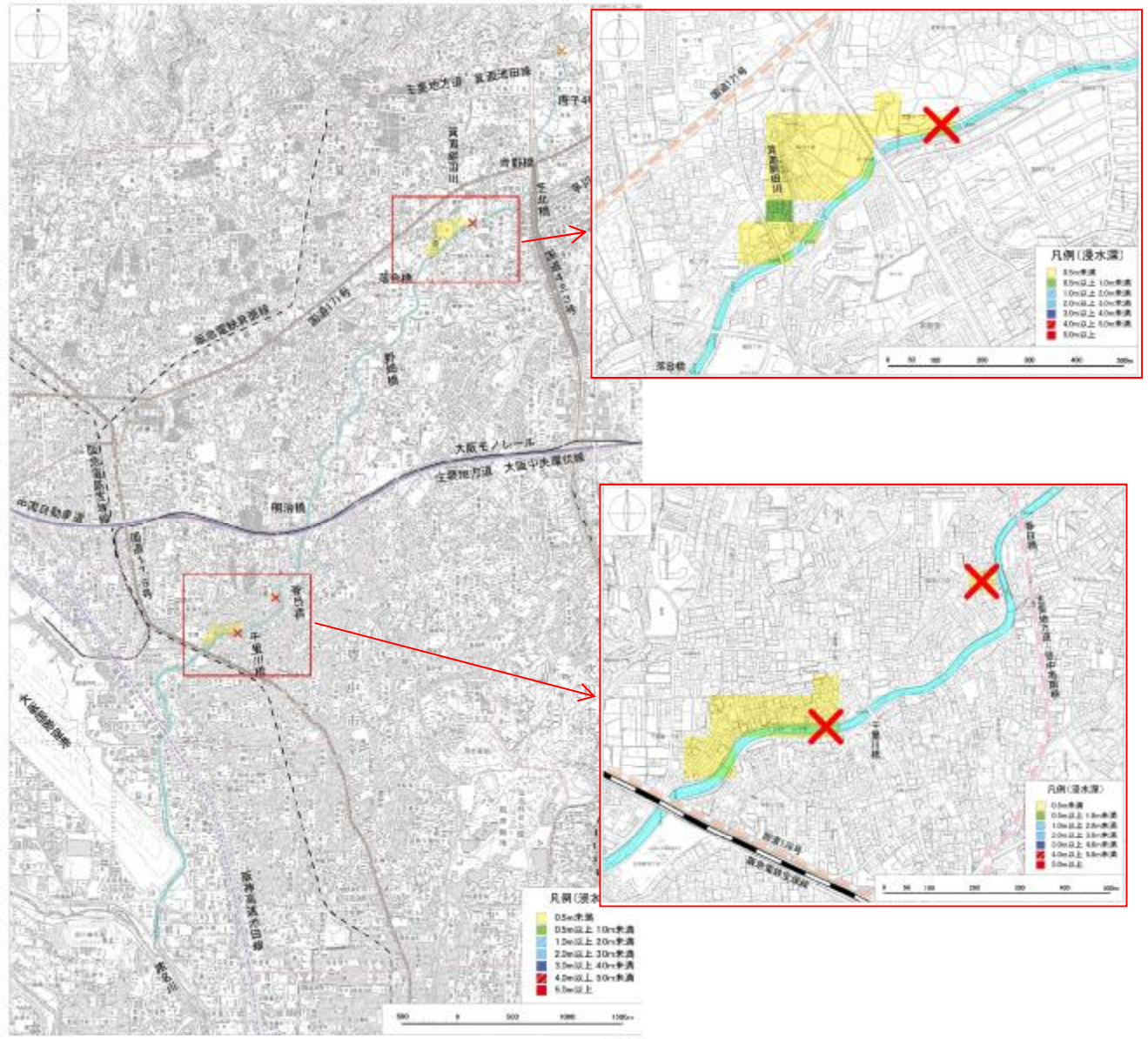
時間雨量65ミリ程度(1/30年)  
浸水なし

# 4. 当面の治水目標【千里川：現況河道における氾濫解析】

## 現況河道 氾濫解析結果



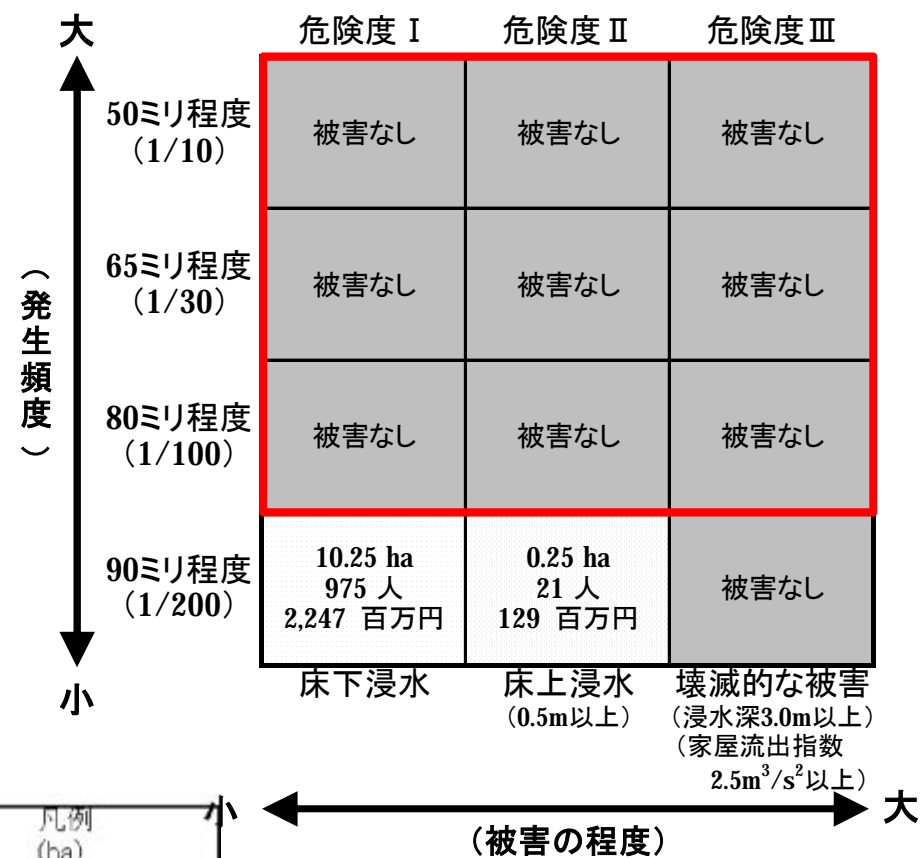
時間雨量80ミリ程度(1/100年)  
浸水なし



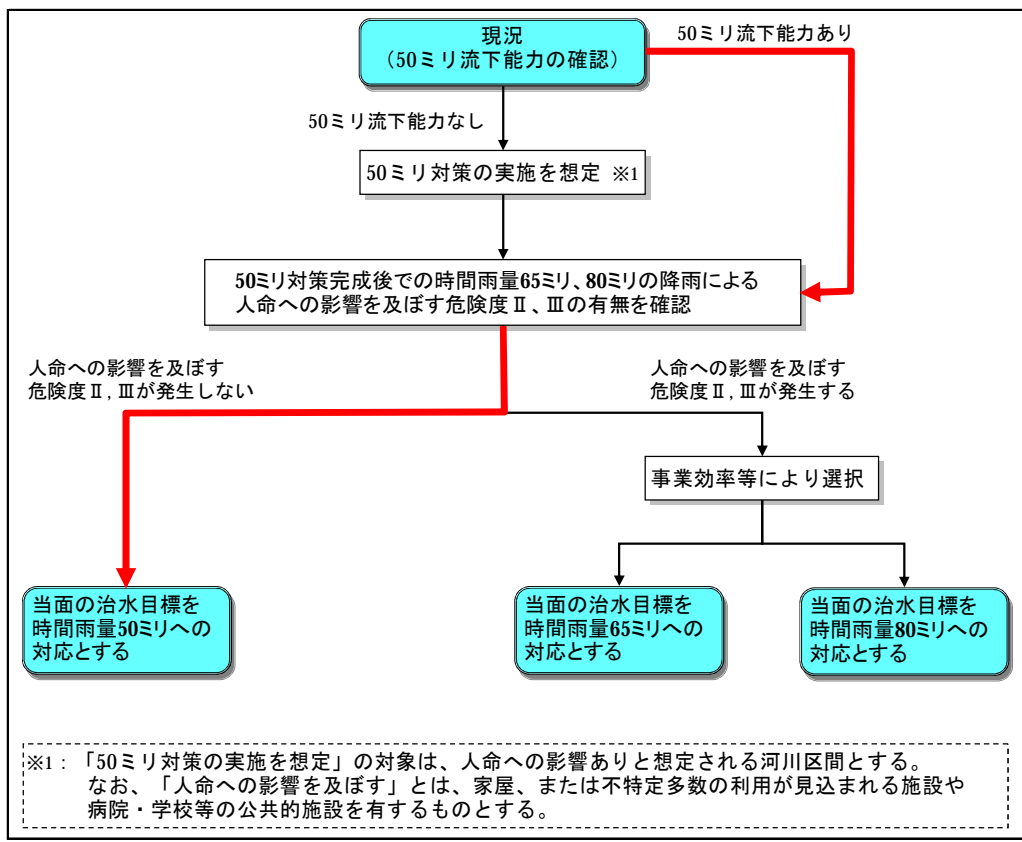
時間雨量90ミリ程度(1/200年)

# 4. 当面の治水目標【千里川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の50ミリ程度の洪水では、浸水被害が発生しない(65ミリ程度、80ミリ程度の洪水でも浸水被害が発生しない)。



面積	凡例 (ha)
人数	(人)
被害額	(百万円)

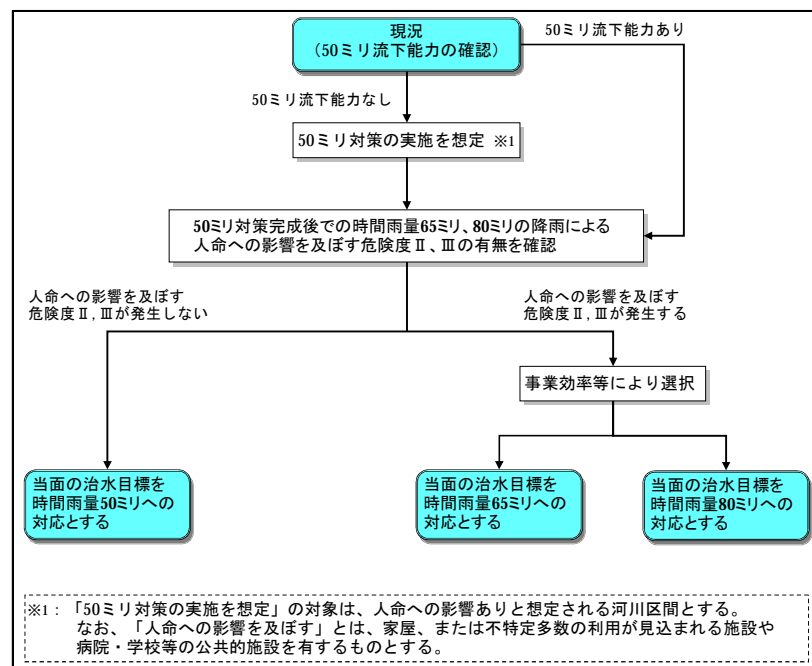


**当面の治水目標を『現状維持』とする。**

## 4. 当面の治水目標【箕面鍋田川：現況河道における氾濫解析の概要】

### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 千里川本川及び支川の箕面鍋田川、芋川についても同時に解析
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 築堤区間では解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点で破堤を想定
- 被害最大破堤地点より下流で、解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点についても破堤
- 氾濫原のメッシュサイズは、50mメッシュ



# 4. 当面の治水目標【箕面鍋田川：現況河道における氾濫解析】

## 現況河道 氾濫解析結果



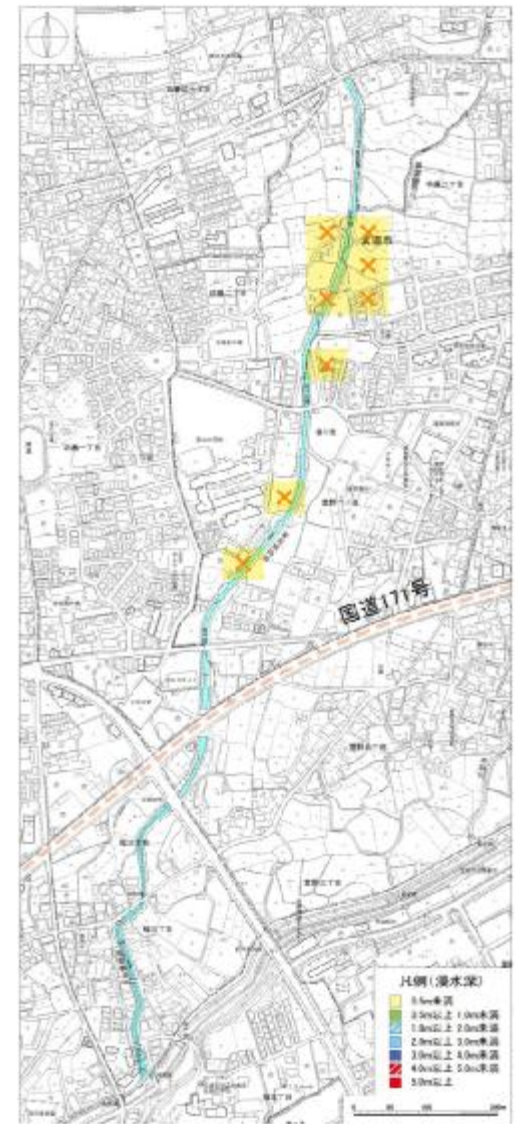
時間雨量50ミリ程度(1/10年)  
浸水なし



時間雨量65ミリ程度(1/30年)  
浸水なし



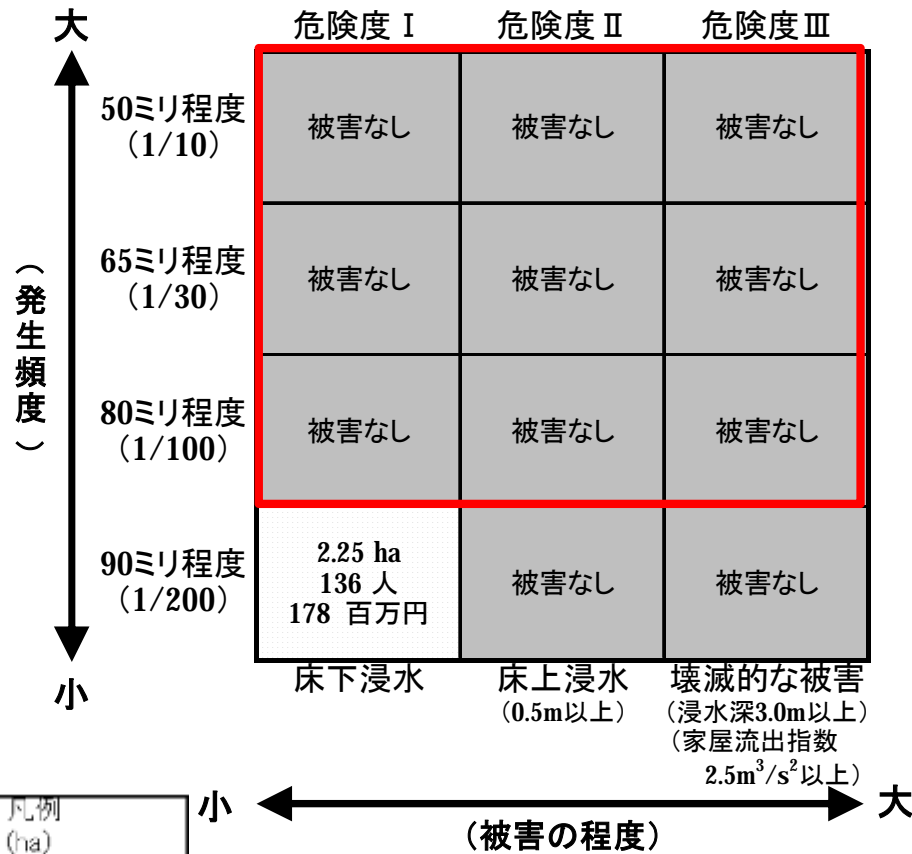
時間雨量80ミリ程度(1/100年)  
浸水なし



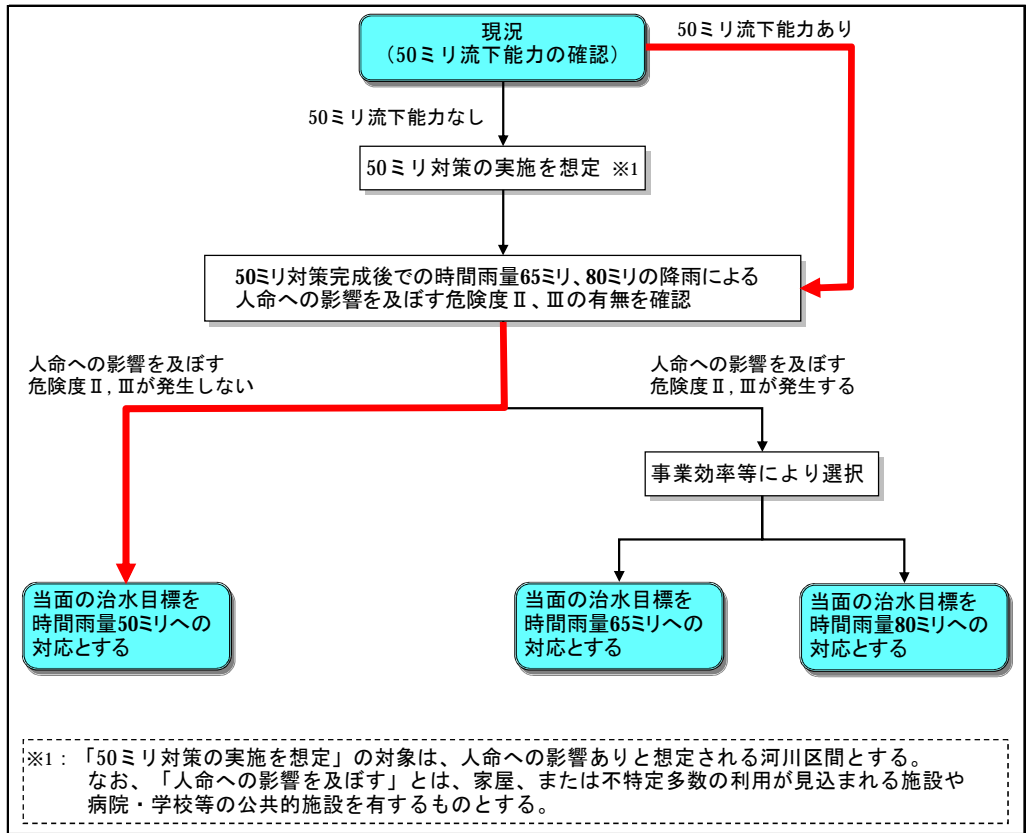
時間雨量90ミリ程度(1/200年)

# 4. 当面の治水目標【箕面鍋田川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の50ミリ程度の洪水では、浸水被害が発生しない(65ミリ程度、80ミリ程度の洪水でも浸水被害が発生しない)。



面積	凡例 (ha)
人数	(人)
被害額	(百万円)



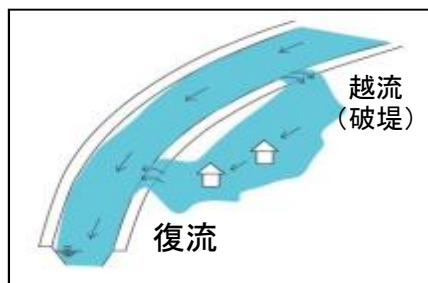
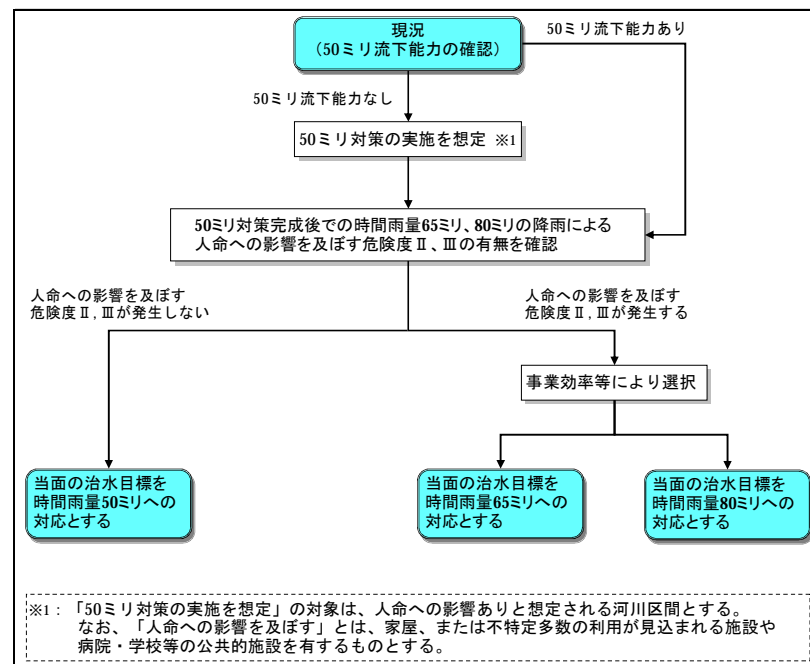
※1: 「50ミリ対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。  
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

**当面の治水目標を『現状維持』とする。**

## 4. 当面の治水目標【芋川：現況河道における氾濫解析の概要】

### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 千里川本川及び支川の箕面鍋田川、芋川についても同時に解析
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 築堤区間では解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点で破堤を想定
- 被害最大破堤地点より下流で、解析水位がHWL(または余裕高の低い方)を上回る地点についても破堤
- 氾濫原のメッシュサイズは、50mメッシュ





## 4. 当面の治水目標【芋川：現況河道における氾濫解析】

### 現況河道 氾濫解析結果



時間雨量50ミリ程度(1/10年)  
浸水なし



時間雨量65ミリ程度(1/30年)  
浸水なし



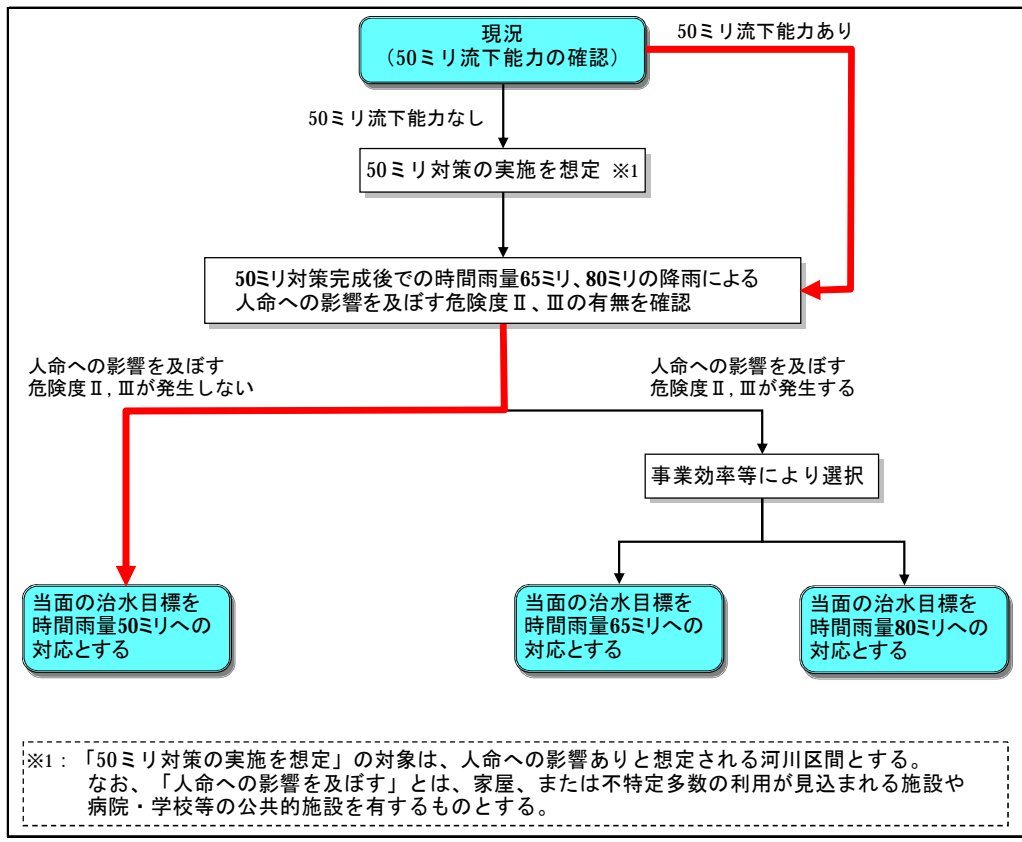
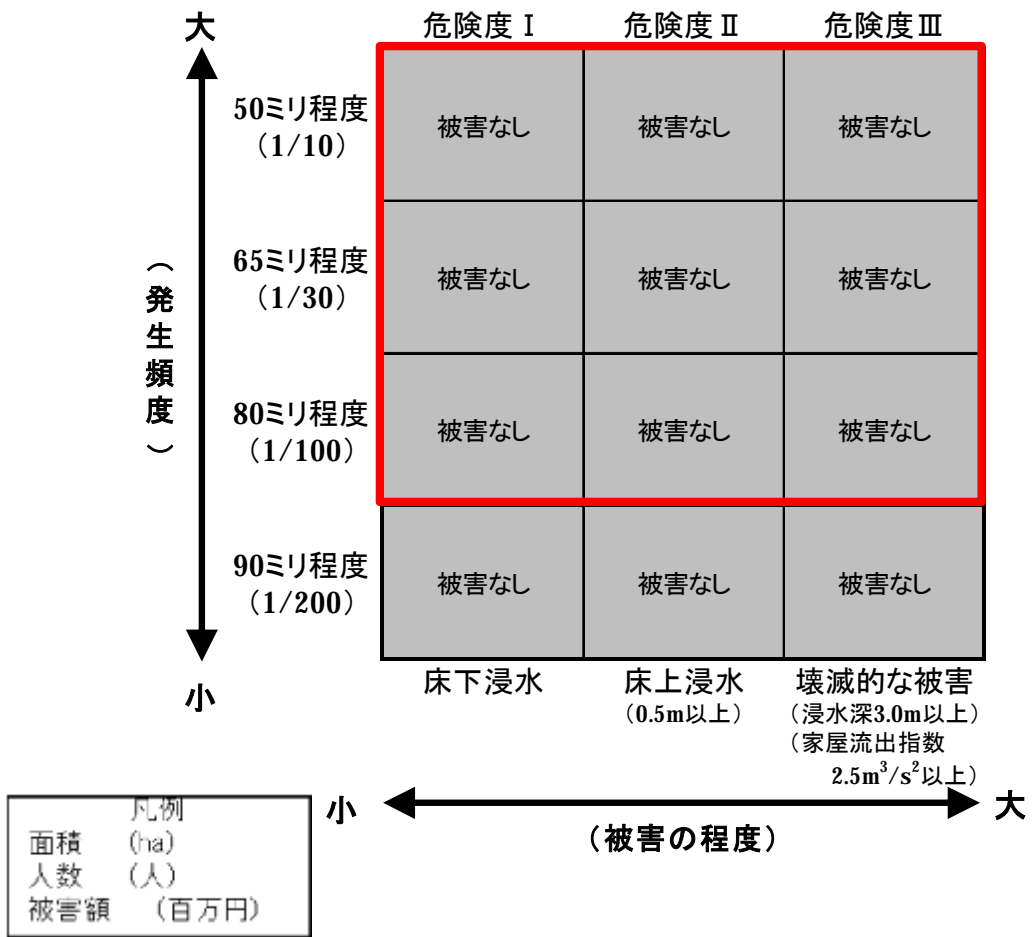
時間雨量80ミリ程度(1/100年)  
浸水なし



時間雨量90ミリ程度(1/200年)  
浸水なし

# 4. 当面の治水目標【芋川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の50ミリ程度の洪水では、浸水被害が発生しない(65ミリ程度 80ミリ程度の洪水では浸水被害が発生しない)。

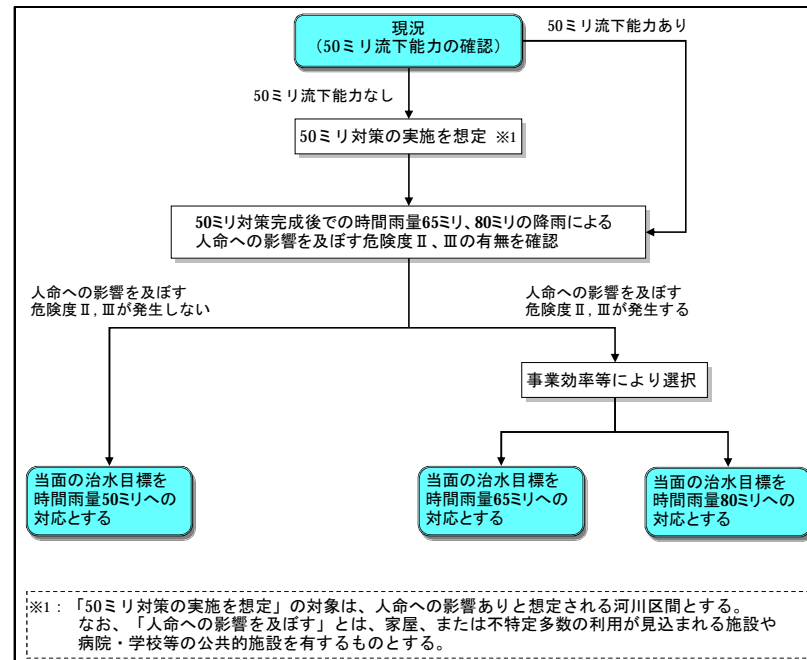


当面の治水目標を『現状維持』とする。

# 4. 当面の治水目標【神田川：現況河道における氾濫解析の概要】

## ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは、50mメッシュ



# 4. 当面の治水目標【神田川：現況河道における氾濫解析】

## 現況河道 氾濫解析結果



時間雨量50ミリ程度(1/10年)  
浸水なし



時間雨量65ミリ程度(1/30年)



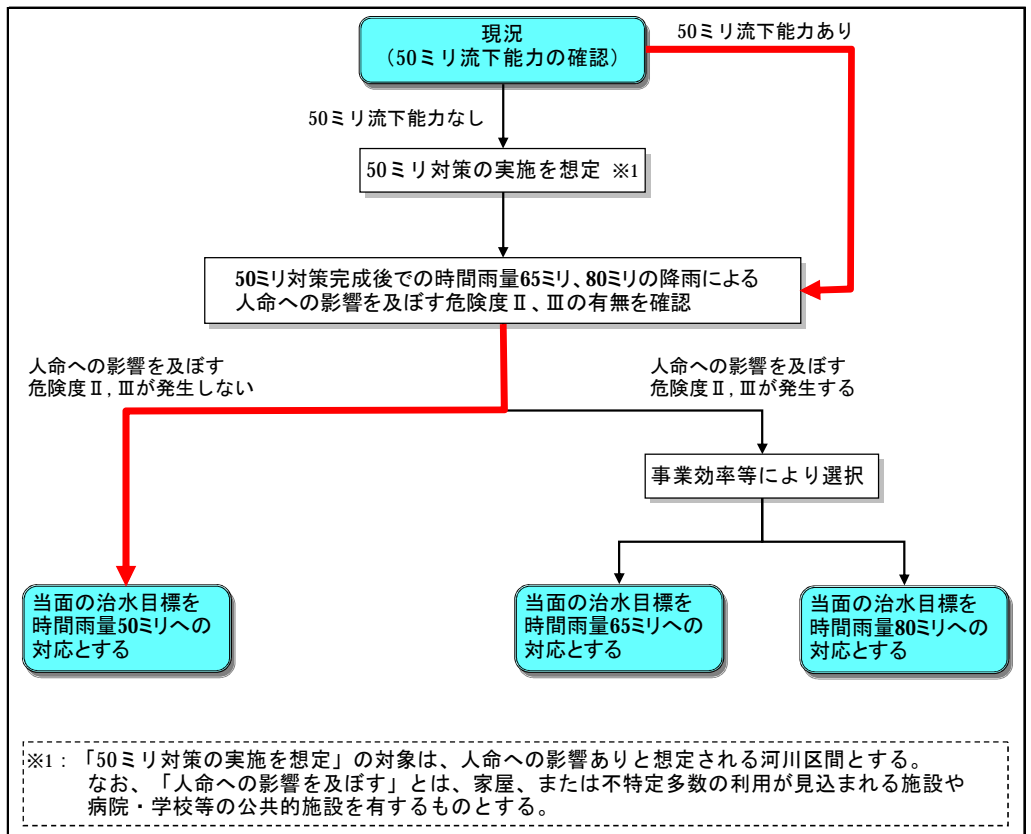
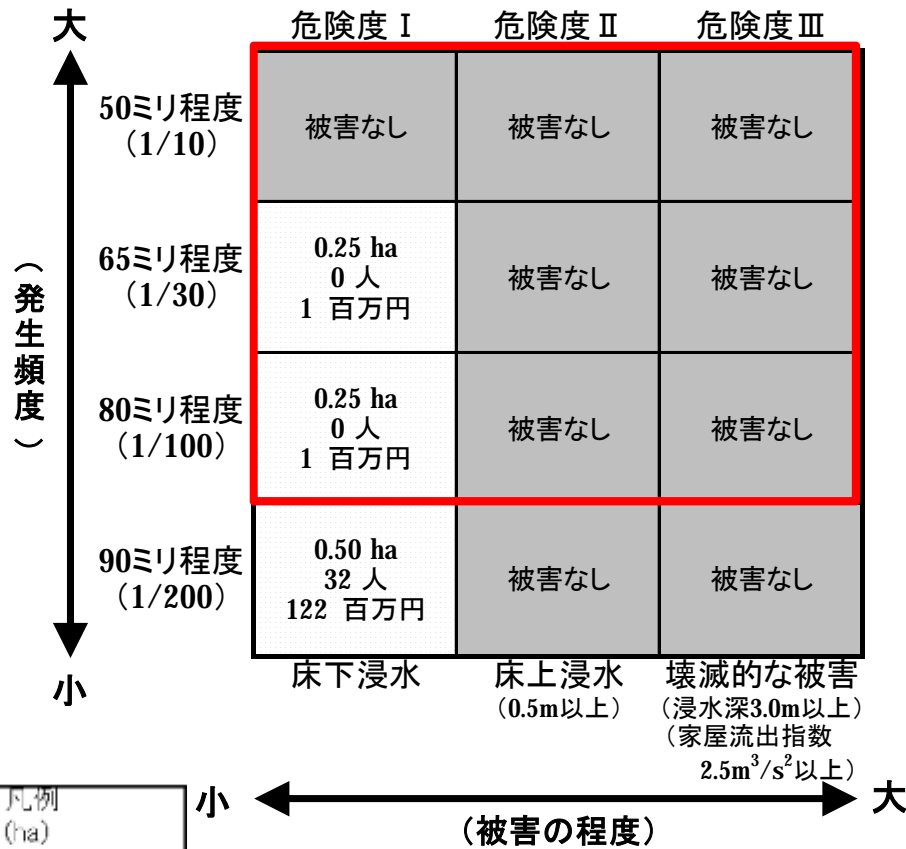
時間雨量80ミリ程度(1/100年)



時間雨量90ミリ程度(1/200年)

# 4. 当面の治水目標【神田川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の50ミリ程度の洪水では浸水被害が発生しない(65ミリ程度 80ミリ程度の洪水で危険度Ⅰの被害が発生する)。

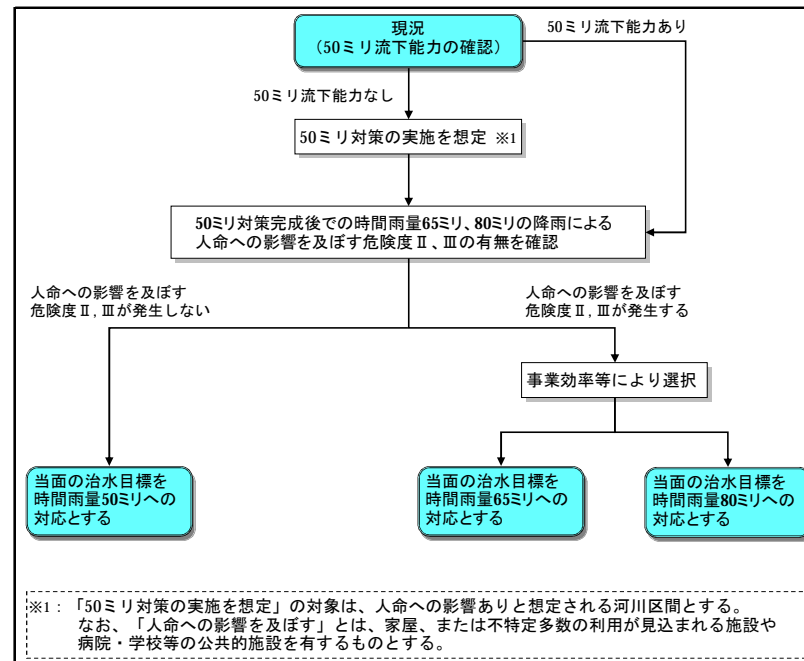


時間雨量65ミリ、80ミリ程度で危険度Ⅱ以上の人的被害が発生しないことから、当面の治水目標を『時間雨量50ミリ程度』とする。

## 4. 当面の治水目標【初谷川：現況河道における氾濫解析の概要】

### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケースを実施
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは、50mメッシュ



# 4. 当面の治水目標【初谷川：現況河道における氾濫解析】

## 現況河道 氾濫解析結果



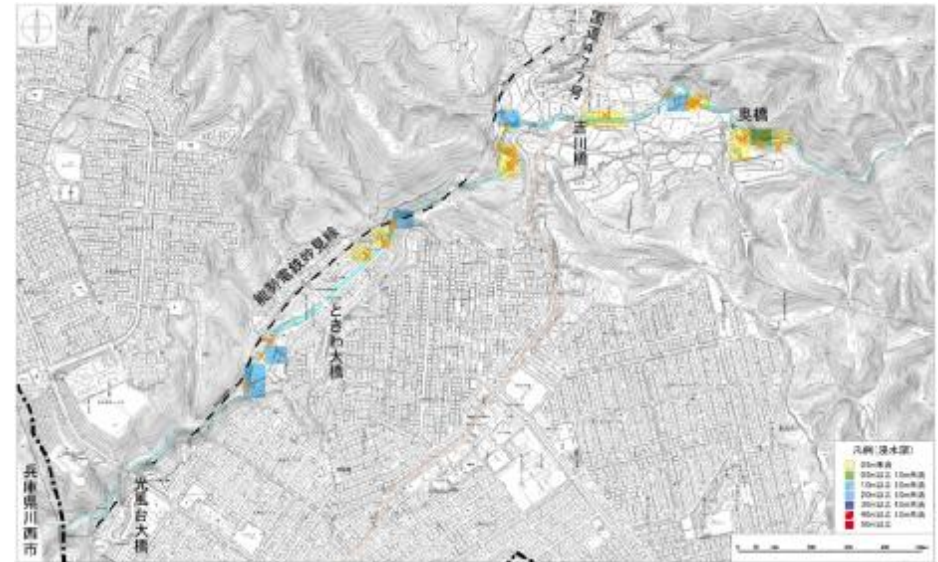
時間雨量50ミリ程度(1/10年)



時間雨量65ミリ程度(1/30年)



時間雨量80ミリ程度(1/100年)



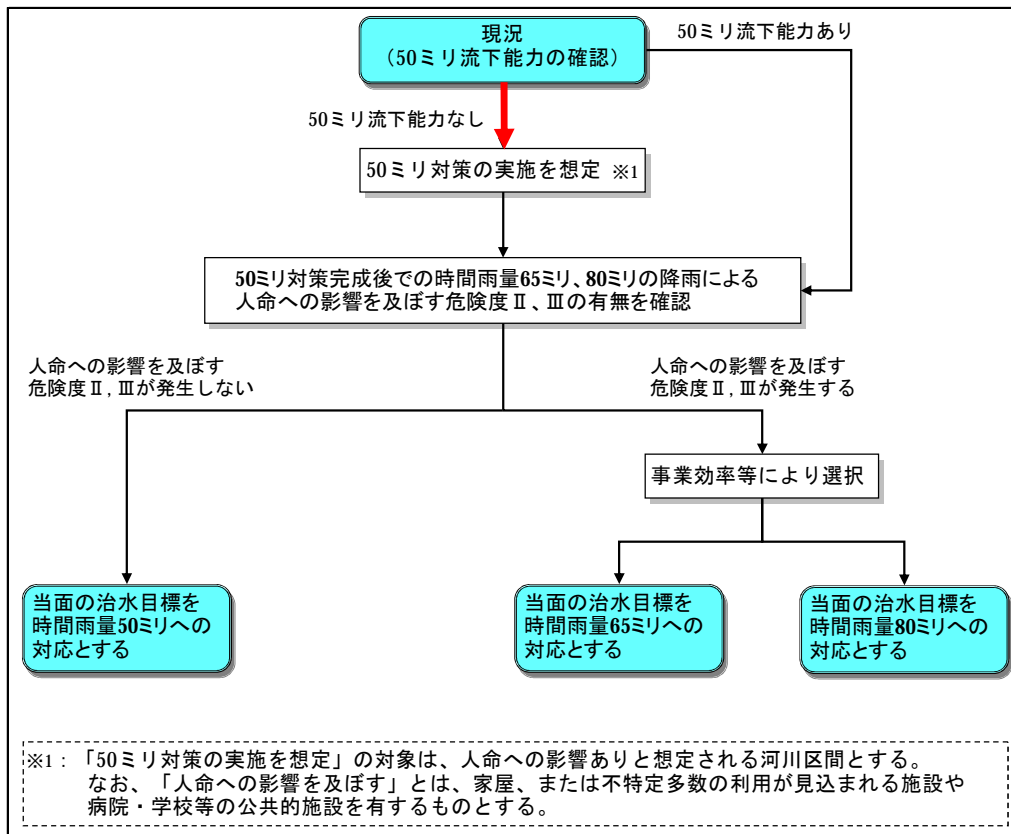
時間雨量90ミリ程度(1/200年)

# 4. 当面の治水目標【初谷川：現況河道における氾濫解析】

現況河道の50ミリ程度の洪水で危険度Ⅱの被害が発生する(65ミリ程度、80ミリ程度の洪水でも危険度Ⅱの被害が発生する)。

(発生頻度)	(被害の程度)		
	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ程度 (1/10)	0.75 ha 2人 18百万円	1.00 ha 0人 2百万円	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	1.75 ha 7人 65百万円	1.25 ha 0人 2百万円	被害なし
80ミリ程度 (1/100)	2.50 ha 116人 182百万円	1.75 ha 2人 46百万円	被害なし
90ミリ程度 (1/200)	2.50 ha 116人 182百万円	1.75 ha 2人 90百万円	被害なし
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)

面積	凡例 (ha)
人数	(人)
被害額	(百万円)



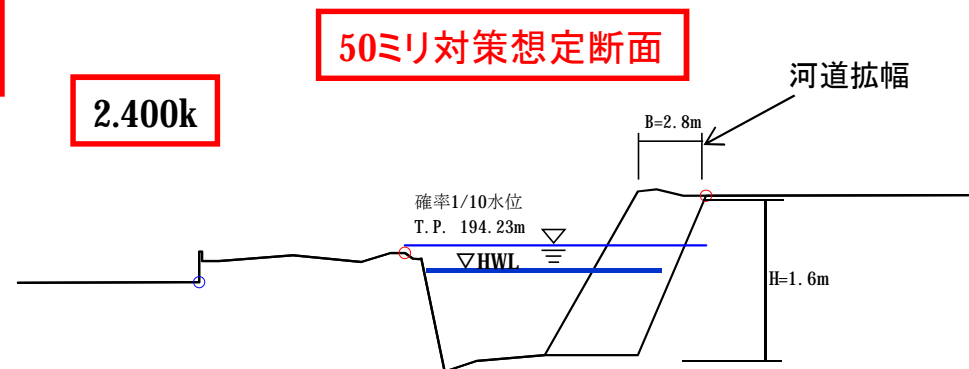
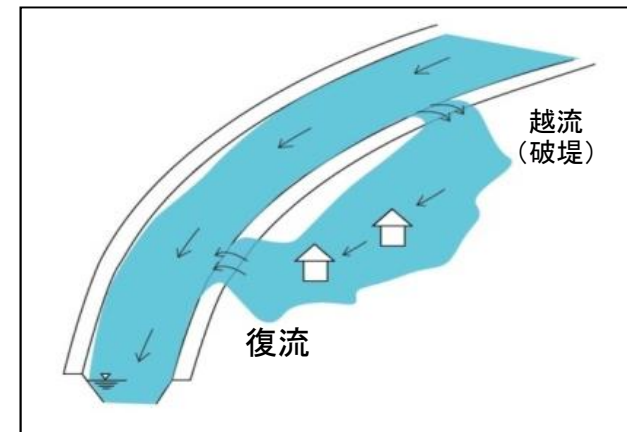
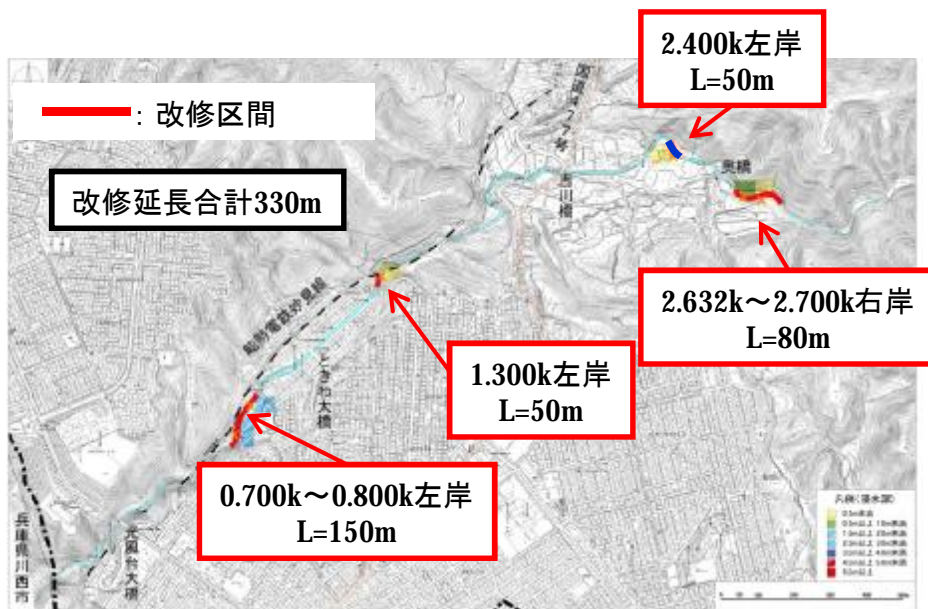
**時間雨量50ミリ程度対策の実施を想定。**



## 4. 当面の治水目標【初谷川：50ミリ対策後河道における氾濫解析の概要】

### ○氾濫シミュレーションの前提条件

- 50ミリ対策後の河道での氾濫解析を実施
- 降雨波形は中央集中型（豊能地域）とし、時間雨量65ミリ、80ミリ、90ミリの4ケースを実施
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流も考慮
- 全川掘込区間で、越水地点からの氾濫のみ
- 氾濫原のメッシュサイズは、50mメッシュ



# 4. 当面の治水目標【初谷川：50ミリ対策後河道における氾濫解析】

## 50ミリ対策後河道 氾濫解析結果



時間雨量65ミリ程度(1/30年)



時間雨量80ミリ程度(1/100年)



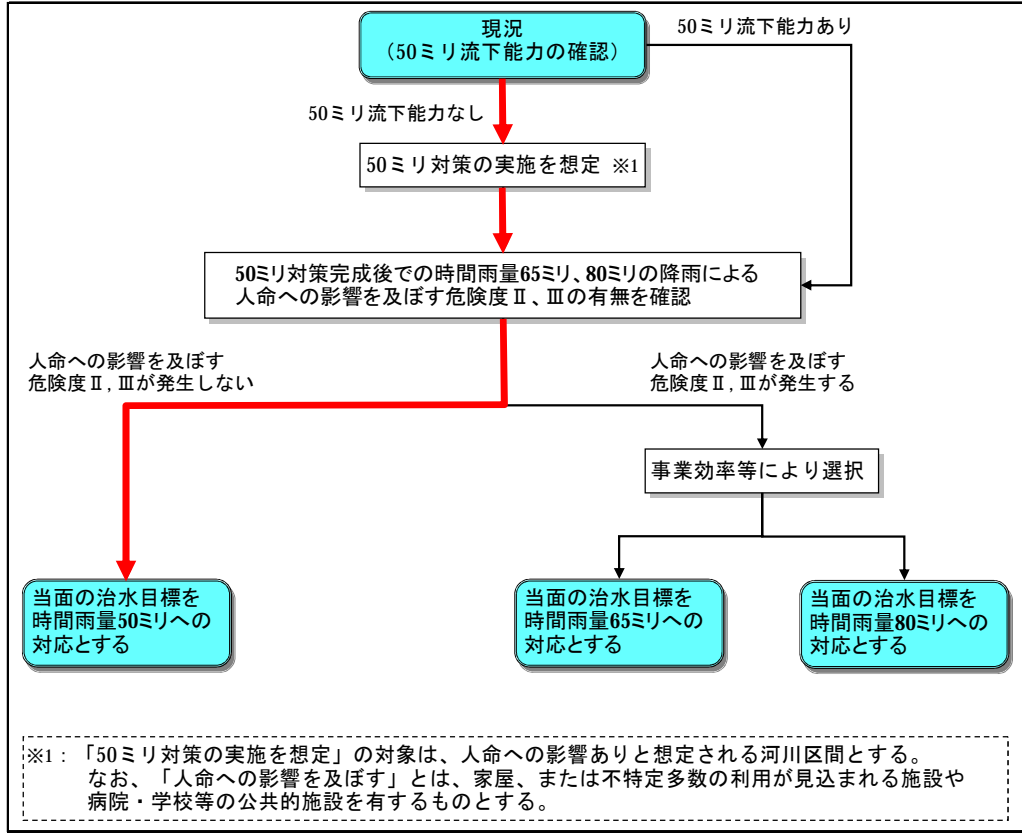
時間雨量90ミリ程度(1/200年)

# 4. 当面の治水目標【初谷川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

50ミリ対策後河道で危険度Ⅱ、Ⅲの人的な被害は発生しない。

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ	
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし	
	65ミリ程度 (1/30)	1.50 ha 5人 48百万円	0.75 ha 0人 1百万円	被害なし	
	80ミリ程度 (1/100)	2.25 ha 6人 57百万円	1.00 ha 0人 1百万円	被害なし	
	90ミリ程度 (1/200)	2.00 ha 116人 181百万円	1.50 ha 0人 2百万円	被害なし	
		床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)	小 ← (被害の程度) → 大

凡例  
面積 (ha)  
人数 (人)  
被害額 (百万円)



時間雨量65ミリ、80ミリ程度で危険度Ⅱ以上の人的被害が発生しないことから、当面の治水目標を『時間雨量50ミリ程度』とする。